

令和6年9月6日

令和6年 第3回区づくり推進横浜市会議員会議 次第

日時：令和6年9月6日(金) 午前10時～

場所：都筑区役所6階大会議室

1 議 題

- (1) 令和5年度 都筑区個性ある区づくり推進費 決算状況について
(資料1)
- (2) 令和6年度 都筑区自主企画事業の執行状況について (資料2)
- (3) 令和7年度 都筑区個性ある区づくり推進費 予算編成の考え方
について (案) (資料3)

2 報告事項

- (1) 都筑区制30周年の取組について
- (2) 令和6年度のGREEN×EXPO 2027 (2027年国際園芸博覧会) の
機運醸成の取組について



令和6年第3回

区づくり推進横浜市議員会議

会議資料

令和6年9月6日

都 筑 区

資料 1

令和 5 年度

都筑区個性ある区づくり推進費

決算状況について

令和 6 年 9 月 6 日

都 筑 区

目 次

令和5年度 都筑区個性ある区づくり推進費 決算状況について	3
令和5年度 都筑区自主企画事業説明書	
自主企画事業費	
施策1 子育て世代をはじめ、あらゆる世代が住み続けたいと思えるまち	
1 妊娠期から学齢期までの切れ目のない子育て支援事業	4
2 保育所を拠点とした地域子育て支援事業	7
3 つづき健康づくりサポート事業	9
4 食と暮らしの安全推進事業	11
5 自治会町内会の地域運営応援事業 拡充	13
6 地域活動の活性化事業（区民活動センター・読書活動・青少年のボランティア） 拡充	15
7 都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」推進事業	18
8 障害者交流啓発事業	20
9 まちづくり総合調整事業 拡充	22
10 危機管理対策推進事業	24
11 災害にそなえる自助・共助の推進事業	26
12 安全・安心なまちづくり事業	28
13 広報・広聴事業	29
14 スムーズ区役所事業 拡充	30
施策2 活力とにぎわい、魅力あふれるまち	
15 横浜ビー・コルセアーズを活かしたホームタウン活動推進事業 新規 拡充	32
16 文化とスポーツであふれるまちづくり推進事業	34
17 区民の交流促進事業（区民まつり・ドイツクリスマスマーケット）	36
18 在住外国人支援・国際交流事業 拡充	37
19 メイドインつづき推進事業	39
20 商店街の魅力発信事業 拡充	41
施策3 花と緑にあふれ、豊かな環境を育むまち	
21 環境にやさしいまち推進事業	42
22 みんなで花と緑のまちづくり事業 拡充	44

※ 新規事業は新規、拡充事業は拡充、と表記しています。

令和5年度 都筑区個性ある区づくり推進費 決算状況について

<個性ある区づくり推進費総括表>

(単位：円)

区 分	予算額	予算現額	決算額	増△減
1 自主企画事業費	100,358,000	100,358,000	95,103,222	5,254,778
2 統合事務事業費	41,112,000	41,112,000	38,383,052	2,728,948
(1) 統合事務費	21,529,000	21,529,000	20,784,010	744,990
(2) 統合事業費	19,583,000	19,583,000	17,599,042	1,983,958
3 区庁舎・区民利用施設管理費	676,770,000	692,255,000	700,235,692	△ 7,980,692
合 計	818,240,000	833,725,000	833,721,966	3,034

<内訳>

1 自主企画事業費

施 策 の 柱	予算額	予算現額	決算額	増△減
(1) 住み続けたいと思えるまち	77,670,000	77,670,000	71,098,652	6,571,348
(2) 活力とにぎわい、魅力あふれるまち	18,003,000	18,003,000	19,909,875	△ 1,906,875
(3) 花と緑にあふれ、豊かな環境を育むまち	4,685,000	4,685,000	4,094,695	590,305
合 計	100,358,000	100,358,000	95,103,222	5,254,778

2 (2) 統合事業費

区 分	予算額	予算現額	決算額	増△減
広報よこはま発行事業	10,820,000	10,820,000	9,070,022	1,749,978
市民相談事業	1,559,000	1,559,000	1,547,888	11,112
クリーンタウン横浜事業	1,460,000	1,460,000	1,354,956	105,044
消費生活推進員活動事業	448,000	448,000	443,354	4,646
緊急時情報システム運用事業	440,000	440,000	427,205	12,795
スポーツ推進委員支援費	1,895,000	1,895,000	1,891,362	3,638
青少年指導員事業	1,441,000	1,441,000	1,434,255	6,745
学校・家庭・地域連携推進事業	1,520,000	1,520,000	1,430,000	90,000
合 計	19,583,000	19,583,000	17,599,042	1,983,958

3 区庁舎・区民利用施設管理費

区 分	予算額	予算現額	決算額	増△減
区庁舎等管理費（光熱水費含む）	223,141,000	237,560,650	248,082,171	△ 10,521,521
区版市民活動支援センター	931,000	931,000	821,251	109,749
土木事務所管理費（光熱水費含む）	6,518,000	6,614,850	6,654,329	△ 39,479
地区センター等管理費	183,009,000	183,009,000	183,831,842	△ 822,842
ログハウス管理費	9,157,000	9,157,000	9,157,000	0
公会堂管理費（光熱水費含む）	34,094,000	35,062,500	35,170,655	△ 108,155
老人福祉センター等管理費	110,584,000	110,584,000	110,582,135	1,865
コミュニティハウス管理費	52,843,000	52,843,000	52,906,800	△ 63,800
区スポーツセンター管理費	42,496,000	42,496,000	42,496,000	0
都筑多文化・青少年交流プラザ管理費	8,125,000	8,125,000	8,125,000	0
その他（広場・遊び場）	382,000	382,000	941,490	△ 559,490
区庁舎・区民利用施設修繕費	5,490,000	5,490,000	1,467,019	4,022,981
合 計	676,770,000	692,255,000	700,235,692	△ 7,980,692

施策1 子育て世代をはじめ、あらゆる世代が住み続けたいと思えるまち

1 妊娠期から学齢期までの切れ目のない子育て支援事業	R5 予算額	R5 決算額	差引
	1,003 万 9 千円	945 万 6 千円	58 万円 3 千円

1 夫婦で子育て応援事業

就労をしている妊婦やパートナーが参加しやすいように、休日開催の両親教室を地域子育て支援センターPopola（以下「ポポラ」）及びポポラサテライト会場で実施しました。

両会場とも月1回実施し、安定期に入り初めて出産を迎える妊婦とパートナーがタイムリーに受講できるようにしました。

- ・ポポラ：毎月第4土曜日、12回開催 参加人数延べ144組
- ・ポポラサテライト：毎月第2土曜日、12回開催 参加人数延べ118組



《休日両親教室の様子》

*参加者の声：

「沐浴体験などを行うことで赤ちゃんが想像以上に重いことがわかるなど、ネットの知識より具体的にイメージすることができた。」「土曜日に開催されていることで夫婦揃って参加することができた。」などの声をいただきました。

2 0歳児地域育児教室（赤ちゃん会）

地域育児教室について、実施回数を増やす等、引き続き仲間づくりや育児相談を行う機会の提供をしました。

- ・18会場198回開催、参加人数延べ3,358人



《赤ちゃん会の様子》

***参加者アンケートの結果：**

子育ての不安が軽減・解消したと回答した方の割合が 95.8%（参加前から不安は特になかった方を含む。）

***参加者の声：**

「赤ちゃんとの遊び方や仲間作りもできたので、参加して良かった。」などの声をいただきました。

3 子育てネットワーク事業

地域の子育て支援の充実を図るため、関係機関との情報交換を行うほか、広く子育て支援に関わる方が参加する交流会を行いました。

- ・子育てネットワーク会議：第1回5月26日 参加人数28人
第2回2月28日 参加人数28人
- ・子育てネットワーク交流会：12月4日 参加人数80人



《第2回 子育てネットワーク会議の様子》

4 育児不安を抱える養育者への支援

育児不安を抱える養育者を対象に、電話や訪問等で継続的な支援を行うとともに必要に応じて心理士が個別の相談に対応しました。

また、2歳児のイヤイヤ期への対応について学ぶ「2歳児講座」を、実施回数を増やし開催しました。

- ・第1回5月17日 参加人数19人、第2回8月23日 参加人数17人
第3回11月1日 参加人数18人、第4回2月7日 参加人数24人

***参加者の声：**

「自分の気持ちに余裕がなくストレスなどが多くなっていたが、子どもの気持ちに寄り添い一緒に成長していきたい」「同じような悩みを他のママも持っていると感じた」などの声をいただきました。

5 地域が支える子ども達の居場所づくり事業

様々な課題を抱えた小中学生を対象に、生活習慣や学習習慣を身に付けられるきっかけとなるよう、地域の協力を得て、居場所づくり事業を実施しました。また、送迎の必要がある児童等の支援を行いました。（南部方面で実施、原則毎週火曜日）

参加人数延べ135人

6 学齢期の子どもや保護者への支援

未就学児のいる保護者を対象に、いわゆる「小1の壁」の不安を軽減するための講演会（動画配信を含む）を行うとともに、各小学校PTA等の協力を得て同じ小学校に入学予定の保護者同士の情報交換の場を設けました。

- ・「小学校入学前に知っておきたい大切なこと～今から備える「小1の壁」～」
（講演会及び情報交換会）：9月9日

参加組数 80組 後日講演会動画の配信を実施、小学校の入学説明会等でも周知



《情報交換会の様子》

*参加者アンケートの結果：

小学校入学前の不安が軽減したと回答した方の割合 94%

主な増減	夫婦で子育て応援事業における両親教室に係る業務委託料の減
------	------------------------------

2 保育所を拠点とした地域子育て支援事業	R5 予算額	R5 決算額	差引
	328 万円	308 万 5 千円	19 万 5 千円

1 おひさま広場（園庭開放）

市立保育所が子育て中の保護者にとって地域の身近な子育て支援機関となるよう、保育協力者を配置して園庭を開放し、子どもを遊ばせながら、育児相談などを行いました。

- ・ 4園計 910 回実施、参加者延べ 6,776 人



《おひさま広場の様子》

2 休日園庭開放

市立保育所の中川西保育園及び茅ヶ崎南保育園において、民生委員・児童委員など地域の協力者の見守りにより、毎月第3日曜日に園庭を開放しました（8月・雨天を除く）。

- ・ 2園計 18 回実施、参加者延べ 390 人

3 給食・離乳食体験事業

地域の親子が市立保育所の給食や離乳食を体験する場を設け、市立保育所の保育士や調理員が、食事のとり方や作り方について保護者に助言しました。

- ・ 4園計 37 回実施、参加者延べ 182 人

*参加者アンケートの結果：食事の進め方の参考になったと回答した方の割合が 100%

4 つづきっこ広場～保育園の先生と遊ぼう～

市立保育所を含む認可保育所や認可外保育施設が合同で、保育所の遊びの紹介や育児相談などを区内 6 か所で実施しました。

- ・ 9月 1日 東山田地域ケアプラザ 参加者 26 人
- ・ 9月 15日 都田地域ケアプラザ 参加者 22 人
- ・ 10月 18日 みどり保育園園庭 参加者 52 人
- ・ 10月 27日 都筑中央公園 参加者 56 人
- ・ 11月 2日 滝ヶ谷公園 参加者 40 人
- ・ 11月 10日 仲町台地区センター 参加者 99 人

5 積木交流（つみきのつづき）

市立保育所にある合計2万個の積木を使い、地域の親子が参加できる積木遊びの育児講座を区民ホールで開催するなど、「つみきのつづき」を広めました。

- ・積木であそぼう！ 12月16日 区民ホール 参加56組
- ・積木であそぼう！ 2月19日 ノースポート・モール 参加22組



《ノースポート・モールでの「積木であそぼう！」の様子》

主な増減	おひさま広場について、熱中症警戒アラート発令に伴う開催中止による報償費の残
------	---------------------------------------

3 つづき健康づくりサポート事業	R5 予算額	R5 決算額	差引
	270 万 5 千円	219 万 3 千円	51 万 2 千円

1 生活習慣病・がん予防啓発事業

生活習慣病やがんについて、さまざまな機会をとらえ、チラシやリーフレットを活用した啓発を行うとともに、乳がん啓発月間に併せてピンクリボンキャンペーンを実施しました。また、働き世代の健康づくりを進めるため、区内の企業と連携して従業員の健康課題を把握しながら、横浜健康経営認証の取得等、健康づくりの取組を支援しました。

- ・ 3歳児健診保護者に対する乳がん検診普及啓発：
計 24 回実施、乳がん自己触診体験者数 1,350 人
- ・ ピンクリボンキャンペーン：10 月 1 日 港北 TOKYU S.C.（協力・会場）
参加者アンケートの結果：毎月自己触診をやってみようと思ったと回答した割合 100%
- ・ 乳がんに関する講座（医師会との共催）：10 月 1 日 かけはし都筑

2 食育推進事業

15 歳未満の人口割合が高い区の特徴に応じ、子どもたちが将来にわたり健全な食生活を送ることができるよう小中学校・保育園等と連携し、情報交換会やイベントを実施しました。

また、子育て支援施設等での食事相談に併せて、養育者の関心が高い乳幼児期のむし歯予防や歯磨きに関する歯科相談を実施しました。

- ・ 食育・健康フェア：6 月 24 日 来場者延べ 2,124 人
*併催：パネル展 6 月 22 日～6 月 28 日
参加者アンケートの結果：野菜をたくさん食べようと思ったと回答した割合 85%
- ・ 第 1 回食育情報交換会：7 月 21 日 参加人数 38 人
- ・ 第 2 回食育情報交換会：12 月 8 日 参加者数 26 人
- ・ 子育て支援者会場等における相談：
食事相談 20 回実施、162 組・歯科相談 11 回実施、70 組
- ・ はじめての離乳食講座：10 回実施、参加組数 127 組



《食育・健康フェアの様子》

3 地域の健康づくり応援事業

連携・協力を促し地域の健康づくり活動の充実を図るため、フレイル予防のための運動について、保健活動推進員や食生活等改善推進員の活動支援や各推進員の合同の研修会を行いました。



《合同研修会の様子》

- ・合同研修会：8月8日 参加人数 39人

参加者アンケートの結果：

フレイル予防について大変理解できた、理解できたと回答した割合 100%

4 健康づくりネットワーク事業

生涯にわたる健康づくりを推進するため、保健活動推進員や食生活等改善推進員、医師会・歯科医師会、地域ケアプラザ等の関係機関・団体と情報交換・意見交換を行いました。区内事業所では定期健診での要指導・要医療判定者への受診勧奨が十分になされていないことや、身近な医療機関で提供されている医療・保健サービスが活用されていないという課題が共有され、事業所向けに医療・保健情報を整理し発信する必要性について確認されました。

- ・第1回健康づくりネットワーク連絡会：9月5日
- ・第2回健康づくりネットワーク連絡会：3月29日

5 こどものお口の健康事業

歯みがきに対する不安が大きい1歳児と養育者に対して、歯みがきの方法やむし歯予防の知識や手法を伝えるための教室を毎月区役所で実施するとともに、地域会場でも開催しました。

また、乳幼児時期から学齢期における口腔機能の発達について、保育園、幼稚園、小中学校関係者に研修会を開催しました。

- ・1歳児の歯みがき教室：20回実施、参加組数 94組
参加者アンケートの結果：
上手くみがくイメージがついたと回答した割合 100%
- ・口腔機能発達に関する講演会：11月1日 参加人数 43人
参加者アンケートの結果：
保育・教育活動の参考になったと回答した割合 92%



《1歳児の歯みがき教室の様子》

<p>主な増減</p>	<p>食育・健康フェア等を開催するための会場設営の委託内容等を見直したことによる残</p>
-------------	---

4 食と暮らしの安全推進事業	R5 予算額	R5 決算	差引
	90万6千円	61万2千円	29万4千円

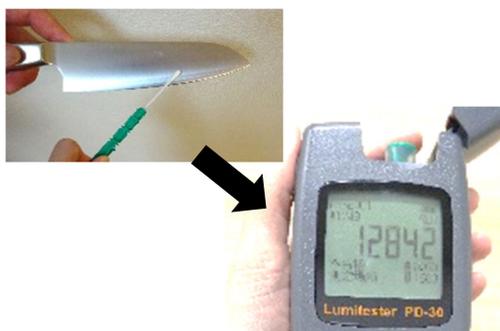
1 食の安全確保事業

(1) 大規模商業施設や大量調理施設への監視指導の実施

都筑区には大規模商業施設内の飲食店や大量調理施設が多く、食中毒が発生した時に被害が大きくなるリスクがあります。定期的な監視にあわせて、調理器具等の洗浄度を数値化できる機器を用いながら助言を行い、自主衛生管理の推進を促しました。

- ・洗浄度を数値化できる機器を併用した衛生指導：5月～3月

給食施設等 21 施設



《洗浄度を数値化できる機器》



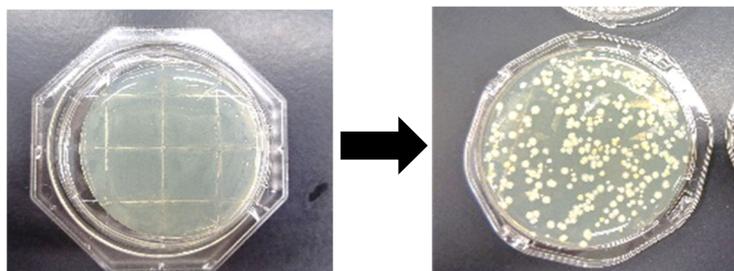
《監視指導の様子》

(2) 地域活動の担い手等への検査機器を用いた食品衛生に関する啓発

高齢者の見守りを目的とした配食サービスやこども食堂などのボランティアで食事を提供する団体に対し、衛生教育のためのツール（簡易的な微生物検査ができる培地）を用いて微生物を可視化することにより、分かりやすい啓発を実施しました。

- ・ボランティアで食事を提供する団体へのチラシ配布による啓発：7月～3月
- ・ボランティアで食事を提供する団体向け講習会：

10月6日（区役所会場）、10月19日（出前講習会会場）計18団体40人が受講



《微生物を可視化して衛生教育を行うための簡易培地》

※講習会参加者アンケートの結果（回答数31）：

ボランティア活動における食中毒対策の方法を知ることができた 97%

食中毒予防で重要な手洗いに対する考え方が変わった 78%

講習会を通じて、より衛生的で安全な地域活動の支援につなげることができました。

2 暮らしの衛生確保事業

(1) 猫等による被害防止に対する支援

区民生活における猫・ねずみ・ハチの被害に対する支援として、被害防止器具の貸出しなどを実施しました。

- ・猫侵入防止器貸出：17件
- ・ねずみ捕獲機の貸出：5件
- ・ハチの巣駆除機器の貸出：18件

(2) 区民が利用する施設の衛生確保

CO₂濃度測定器を用いて、理美容所等の換気状態を数値化することにより、わかりやすい衛生管理の指導を行いました。

3 動物適正飼育推進事業

動物愛護週間に長寿ペット表彰、飼い主セミナー等を実施するとともに、区民まつり等において、ペットの飼育マナー及び適正な飼育などに関する啓発を実施しました。

動物愛護週間：9月20日～26日

- ・区民ホールにて、ペット防災用品等や長寿ペット表彰パネル展示：9月20日～26日
- ・飼い主セミナーの開催：9月25日

※セミナー参加者の声：「犬に根気強く接したい」や「わかりやすかった」という感想があり、適正飼育に対する意識が高まりました。



《長寿ペット表彰パネル展示》



《飼い主セミナー》

<p>主な増減</p>	<p>食の安全確保推進事業の施設監視時に使用する消耗品の在庫活用による残</p>
-------------	--

5 自治会町内会の地域運営応援事業 拡充	R5 予算額	R5 決算額	差引
		917 万円	829 万 1 千円

1 自治会町内会加入促進

地域のつながりづくりのため、自治会町内会への加入促進を連合町内会自治会等と連携しながら行いました。

【取組】

- ・未設立・新築マンションへの働きかけ
- ・転入手続時の自治会町内会活動紹介冊子の配布
- ・区内各駅や施設等での自治会町内会活動紹介冊子の配架
- ・宅建協会横浜北支部と連携した自治会町内会活動紹介冊子の配布
- ・加入促進動画の作成、パネル展の実施（3月）
- ・連合町内会等と連携した未加入世帯への働きかけ・加入取次
- ・自治会町内会活動紹介冊子の改訂版の発行

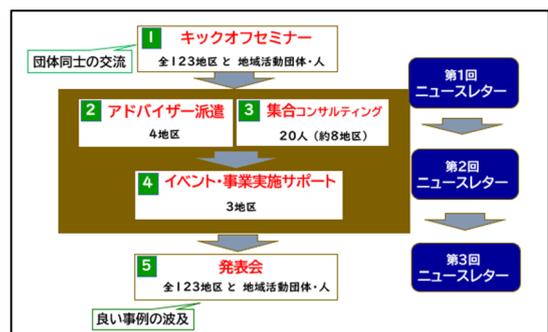
2 専門アドバイザー伴走型 新しい地域運営スタイル推進事業

自治会町内会の新しい地域運営スタイル（以下「都筑スタイル（※）」）を推進するため、自治会町内会等を対象に、デジタル活用や多世代交流等の地域ニーズに対して個別に専門家を派遣しました。また、自治会町内会に共通する課題である「自主防災」をテーマに、複数地区が学び合う集合型のコンサルティング等を実施しました。

※都筑スタイルとは…自治会町内会が地域の多様な活動主体との緩やかな連携を行い、柔軟な運営方法などを通じて活動をより豊かにすることで、やりがいや魅力アップにつながる都筑区の新しい自治会活動の形のこと。

【取組】

- ・キックオフセミナー 6月24日 参加者数81人
- ・アドバイザー派遣 6月～3月 4地区参加
- ・集合コンサルティング 10月～12月
参加者数25人(13団体)
- ・イベント・事業実施サポート 6月～3月
3地区参加
- ・発表会 3月 参加者数86人
- ・ニュースレターの発行 第1号～第3号 各5,000部



《都筑スタイルの流れ》

※発表会 参加者アンケートの結果

回答者（55人）のうち約96%が内容に対して「とてもよかった/よかった」と評価。

「たくさんの経験と知恵があり、参考にしたい」「各自治会に共通するテーマの発表で良かった」といった声をいただきました。



《キックオフセミナー》



《アドバイザー派遣》



《集合コンサルティング》

＜アドバイザー派遣による新たな取組例＞

①テーマ：多世代交流の居場所づくり

取組：マンション自治会の周年事業の作戦会議とした住民参加の交流カフェの実施

②テーマ：新しいイベントの企画と担い手発掘

取組：区民活動センターのプログラムバンクを活用した「コーヒーの淹れ方講座」の実施

③テーマ：広報活動の電子化

取組：公式LINEアカウント及びホームページの活用による回覧板の電子化

④テーマ：ホームページやSNSを活用した広報

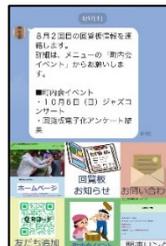
取組：インスタグラムを活用した地区連合情報の効果的な発信



《①交流カフェ》



《②コーヒーの淹れ方講座》



《③公式LINE》



《④インスタグラム》

3 自治会町内会への情報提供

都筑区連合町内会自治会（以下「区連会」）定例会資料を、8月と12月を除く毎月、各自治会町内会あてに配送し、区連会ホームページに掲載しました。

4 NPO 法人情報誌の発行

地域資源の見える化として、自治会町内会等へ向け、地域運営を担う団体の一つであるNPO法人の活動や地域とのつながり等を紹介する情報誌「tsuzuki ANCHOR」を発行し、地域の活動主体同士の連携を促しました。（年3回発行）

・第7～9号発行、SNS 発信（各5,500部）



5 自治会町内会長感謝会

自治会町内会長感謝会を開催し、永年にわたり尽力された会長に対し感謝状を贈呈するとともに各自治会町内会長に対し、感謝の意を表しました。（3月1日）

主な増減

自治会町内会活動紹介冊子の在庫活用による印刷製本費の残

6 地域活動の活性化事業（区民活動センター・読書活動・青少年のボランティア） 拡充	R5 予算額	R5 決算額	差引
	388 万 5 千円	253 万円	135 万 5 千円

1 区民活動センター運営事業

(1) 活動団体情報のデジタル化と広報の強化

区民の自主的な地域活動を支援し、地域活動に関心を持つ人が必要な情報を得やすい環境をつくるため、活動団体や地域資源に関する情報をスマートフォン等で簡単に取得できる仕組みづくりに向けた実証実験や SNS による情報発信の強化を行いました。

- ・都筑区民活動センター公式 LINE アカウントの開設（11 月）
- ・市民局、デジタル統括本部、青葉区と連携し、デジタル化に向けた実証実験を実施（2 月～5 月）

(2) 講座・イベント・成果報告会の企画・運営

地域活動のきっかけづくりや地域で活動する団体同士のつながりづくりを目的に、年間を通じて様々な講座やイベント、交流会を実施しました。実施にあたり、区民利用施設や市民団体及び地域活動に関心を持つ区民と協働で企画運営に取り組むことで、地域と連携した地域活動の促進を図りました。

また、都筑スタイルの6月のキックオフセミナー及び3月の成果発表に区民活動センター職員が参加し、自治会町内会との連携強化を図りました。

- ・地域活動のきっかけづくりや情報交換の場「交流サロン」（毎月開催、都筑区民活動センター）
- ・地域活動の担い手づくり「大人の部活動」3 団体伴走支援（通年）
- ・区民ライターが取材・執筆する WEB マガジン「縁 ジン」による情報発信（通年）
- ・地域活動団体のスキルアップ講座「縁 ジンミーティング」（7 月、1 月、区役所会議室）
- ・地域活動の活動発表、交流会「つづき人交流フェスタ」（2 月、区民ホール）



《区民活動センター登録団体の交流イベント「つづき人交流フェスタ」》

2 子どものボランティア体験事業

夏休み期間を利用して、中・高校生がボランティア活動を体験し、日ごろ関わる機会が少ない年代や地域の方々と交流し、体験を通じて学ぶ「はあと de ボランティア～中高生のための夏休みボランティア体験～」及び小学校 5・6 年生向けの「はあと de ボランティア プレコース」を実施しました。つづき MY プラザや青少年指導員が中心となり、施設や団体と連携して子どもと地域をつなぐことによって、地域で活動する大人にとっても、子どもと関わり新たな気づきの場となることを目指しました。

また、同事業の発展形として、中・高校生が1年を通して活動し来夏の体験事業を企画する「STEP UPプログラム」(局予算事業)を支援しました。

- (1) オリエンテーション：7月14日、7月21日～24日、全7回、区内地区センター、都田小学校コミュニティハウス、つづきMYプラザ、日々輝学園高等学校
- (2) ボランティア体験：7月26日～8月18日
中高生コース…79プログラム(参加者280人)
小学5・6年生プレコース…40プログラム(参加者95人)
- (3) 修了証授与：8月19日、都筑区役所



《はあとdeボランティアの様子
(左上：オリエンテーション、右上：竹林整備
左下：ラジオ体操 右下：振り返り・修了証授与)》

※振り返り 参加者アンケートの結果：

「地域の方々との仲が深まった」「自分が成長したことを感じた」など、前向きな意見を多く頂きました。

3 読書活動推進事業

区民の読書活動を推進するために、図書館と連携し、区内の各施設で読書をテーマにした、おはなし会、講演会及び展示会などを実施しました。

- (1) おでかけ図書館：保育所、地区センター及び商業施設などに出向いて、絵本のおはなし会や展示広場などを行う読書活動(通年)
- (2) つづきブックフェスタ：市民団体と協働で実施する講演会、実演会及び展示会などの読書イベント(11月、区民ホール、区役所会議室)

(3) 読書懇談会：自治会町内会、市民団体及び学校などの関係者で行う読書活動推進に関する懇談会（2月）



《おでかけ図書館（ららぽーと横浜の様子）》



《つづきブックフェスタ》

主な増減	活動団体情報のデジタル化による情報発信事業において、システム使用料を局予算で実行することになったことによる減
------	--

7 都筑区地域福祉保健計画 「つづき あい」推進事業	R5 予算額	R5 決算額	差引
	203万3千円	82万円	121万3千円

1 地区別計画推進会議等の開催支援

(1) 第4期計画推進に向けて、地域住民による課題共有・解決の体制を促進するため、地区別計画推進会議等の開催を支援しました。また、会議への参加を通じて把握した地域課題について、区職員に加えて区社会福祉協議会や区内地域ケアプラザも参加する会議等の場を活用して検討し、課題解決に向けて取り組みました。

地区別計画推進会議・地域懇談会開催地区数：9地区



《地区別計画推進会議・地域懇談会》



《地域の子ども向けクリスマス会》

(2) 地域での取組に対して、「つづき あい基金」を通じて支援を行いました。

「つづき あい基金」助成団体：5件4団体

2 地域福祉保健計画推進体制強化事業

(1) 身近な地域の福祉保健にかかわる取組を広く区民に知っていただき、参加するきっかけとなるよう、広報よこはま等を活用して啓発を進めました。



《広報よこはま掲載：12月号》

(2) 第4期計画推進にあたり、庁内及び関係機関の連携強化を図りつつ地域支援を行えるよう、地域支援に関わる区や関係機関の職員を対象とした研修を実施しました。

- ・職員向け計画説明会：4月26日、4月28日
- ・職員向け研修：11月27日

3 都筑区地域福祉保健計画推進委員会等の運営

学識経験者や各種団体の代表者等からなる都筑区地域福祉保健計画推進委員会を開催し、計画の推進状況、地域の取組、今後の取組課題等について意見交換を行いました。

推進委員会開催：12月25日

4 「つづき あいフォーラム」の開催

地域の活動事例の発表等を通して、区民に身近な地域の取組を知っていただき、また担い手の方々が活動のヒントを得たり、新たな課題に気づく機会となるよう、「つづき あいフォーラム」を開催しました。

フォーラム開催：2月17日（テーマ：災害時でも助けあえる都筑区を目指して）



《フォーラム当日の様子》

《フォーラムチラシ》

※参加者アンケートの結果：「あいさつ、声かけ、ちょっとした気付きを大切にしたいと思った」「広く浅いつながりを自分だけでなく周りの人にも紹介、広めていくようにしたいと思った」などの回答がありました。

<p>主な増減</p>	<p>補助金（つづき あい基金）の申請が見込みを下回ったことによる減</p>
-------------	--

8 障害者交流啓発事業	R5 予算額	R5 決算額	差引
	107万7千円	43万9千円	63万8千円

1 福祉農園事業

障害児・者の方が参加する芋の収穫体験を実施しました。(10月22日)

- ・参加人数：約300人(うち障害児・者218人)

また、12月の障害者週間にあわせて、区民ホールで障害当事者や障害者福祉事業所等の関係機関と協働により、「障害者と地域の共生フェスタ」を実施し、障害者施設の事業所紹介のパネル展などを行いました。(12月1日～6日)

- ・参加者アンケートの結果：障害や障害のある人に関する理解と関心を深めることを目的とした行事や催しに参加したい(91%)



《芋の収穫体験の様子》



《障害者と地域の共生フェスタの様子》

2 障害者地域啓発事業

- (1) 区民まつり福祉バザー(11月3日)

地域住民が参加する区民まつりにおいて、障害者団体が出店し、障害者と地域住民の交流の機会としました。

- (2) 障害者グループホームの地域防災拠点防災訓練への参加支援(9月～2月)

障害者が地域防災拠点の防災訓練に参加し、地域住民とお互いに顔の見える関係を築くとともに、障害者自身が拠点の役割や機能を理解していただく機会としました。

- ・参加施設数：35か所



《区民まつり 障害者団体自主製品販売》



《都筑区自立支援協議会ホームページでの地域防災訓練参加推奨》

3 障害者施設支援事業

障害者の社会参加につなげるため、区民ホール、駅構内において障害者施設が自主製品の販売活動を実施しました。また、この活動について区民の皆様への周知を支援しました。



《川和駅構内での販売の様子》

<p>主な増減</p>	<p>福祉農園事業「障害者と地域の共生フェスタ」において、区民ホールでのパネル展示や物品販売を拡大し、公会堂イベントを実施しなかったことによる補助金の減</p>
-------------	--

9 まちづくり総合調整事業 拡充	R5 予算額	R5 決算額	差引
	661 万 3 千円	854 万 6 千円	△193 万 3 千円

1 企画調整・情報収集提供

(1) 区民意識調査の実施

区民の日常生活に関する意識や行動を把握し、今後の施策の基礎資料とするため、区民意識調査を実施しました。より簡便に回答できるよう、新たにインターネット調査を実施し、前回調査（令和元年度調査）と比較して回収率が 10.7 ポイント増加しました。（調査期間：5月24日～6月20日、調査結果公表：12月25日）

(2) まちづくり調整

あゆみが丘市有地の利活用や南部地域における市営バスの実証実験を、地域や事業を所管する局等と連携しながら進めました。また、区域内における建築協定の更新やまちづくり活動団体への支援などに取り組みました。（建築協定の更新：1件）

(3) 区内大学との連携

東京都市大学については、地域課題に関する意見交換会（地域連携協力会議）（5月24日）、学生による地域についての研究発表会（地域連携調査研究発表会）（2月27日）等を行いました。

5年4月に開校したビューティ&ウェルネス専門職大学については、今後の連携に向けた検討を行いました。



《東京都市大学・地域連携調査研究発表会の様子》



《ビューティ&ウェルネス専門職大学》

(4) 区内企業との連携

区内企業による公立小・中学校出前講座（つづき博士倶楽部）を行いました。（7校10講座）

2 区民文化センター関連事業

7年3月開館予定の都筑区民文化センターの整備（5年5月着工）とともに、隣接する鉄道高架下用地の利活用を所管局等と連携しながら進めました。

また、整備の進捗状況をお知らせするとともに、開館に向けた機運を醸成するため、区民文化センターニュースを発行（7月21日）したほか、区民ホールにて整備状況等を紹介するパネルの展示を行いました。（8月21日～28日）

なお、区民文化センターの愛称をネーミングライツにより「ボッシュ ホール（英語名：Bosch Hall）」に決定しました。（ボッシュ株式会社との契約締結日：6月29日）



《ネーミングライツ契約締結セレモニーの様子》



《区民文化センターニュース第9号》



《区民文化センターパネル展の様子》

3 区制 30 周年記念事業

6年11月6日の区制30周年を区民の皆様と共にお祝いするため、区として区制30周年記念ロゴマーク及びキャッチフレーズの制定（11月）や特設サイトの開設（1月）、記念グッズの制作（1月）等の各種取組を行ったほか、地域・企業・団体等の皆様が行う区制30周年をお祝いする行事や取組を積極的に支援し、多くの方が関わり、一体感を生み出していけるような取組を進めました。



《区制30周年記念ロゴマーク》



《区制30周年記念特設サイト》



《区制30周年記念グッズ》

主な増減

区制30周年の機運醸成を図るため、特設サイトの開設や記念ロゴマーク等を作成したことによる委託料の増

10 危機管理対策推進事業	R5 予算額	R5 決算額	差引
	943 万 7 千円	869 万円	74 万 7 千円

1 関係機関と連携した災害対応力の向上

(1) 「災害対策連絡協議会」や「帰宅困難者対策部会」を開催し、警察署等の関係機関・団体と情報共有や意見交換を行いました。

- ・災害対策連絡協議会（令和5年5月12日）
- ・帰宅困難者対策部会（11月1日）

(2) 「災害医療連絡会議」や「災害医療体制検討プロジェクト会議」等の場で、区医師会等の関係機関・団体と災害医療に関する情報共有や意見交換を行いました。

(3) 区独自に設置の防災用スピーカーを一斉に放送する訓練や、区医師会等と実施する災害医療対策訓練及び交通事業者や帰宅困難者一時滞在施設の全会場と Zoom で繋げた帰宅困難者対策訓練を通じて、関係機関・団体との連携強化を図りました。

- ・水防訓練：7月15日、18日
参加者 18 人（都筑消防署、都筑区役所）
- ・「診療中」の黄旗掲出訓練：9月1日、1月17日、3月11日
参加機関：のべ 261 機関（都筑区医師会、都筑区薬剤師会、昭和大学北部病院、区内医療機関等、都筑区役所）
- ・帰宅困難者対策訓練：12月8日
参加者 46 人（帰宅困難者一時滞在施設、東急バス、横浜市交通局、都筑警察署、都筑消防署、都筑区役所）
- ・仮設救護所運営訓練：3月9日
参加者 50 人（都筑区医師会、都筑区薬剤師会、都筑区歯科医師会、都筑区訪問看護連絡会、昭和大学 横浜市北部病院、つづき病院、Yナース、都筑消防署、都筑区役所）

(4) 区災害対策本部の運営のため、通信機能の確保や資器材の補充を行いました。また、能登半島地震を踏まえ資器材の点検や取扱訓練を行うとともに、区役所内部の会議等において、被災地への派遣者から現地での課題等について情報共有を行いました。

なお、能登半島地震で明確になった課題等を踏まえ、3月に実施した区災害対策本部訓練ではより実践的な訓練を行い、区職員の災害対応能力の向上を図りました。

- ・区災害対策本部訓練：9月19日、3月4日
参加者 92 人（都筑警察署、都筑消防署、都筑土木事務所、都筑区役所）



《水防訓練におけるマイク操作訓練》



《帰宅困難者対策訓練》



《黄旗掲出訓練》

2 災害時における情報発信

(1) 災害発生時や災害発生が見込まれる際、緊急時情報伝達システムを活用し、区内の自治会・町内会長等へ避難情報等を一齐に電話で知らせるシステムを引き続き運用しました。

・緊急時情報伝達システム受伝達訓練：6月9日 登録者 170人

(2) Jアラートについて、総務省消防庁では住民の迅速かつ確実な避難を図るため、Jアラートと連携する情報伝達手段の多重化を推進しています。都筑区では、区独自に河川沿いに設置した防災用スピーカーからJアラートが放送できる機能を追加しました。(10月)



《防災用スピーカー》

主な増減	防災・生活マップの在庫活用による印刷製本費の残
------	-------------------------

11 災害にそなえる自助・共助の推進事業	R5 予算額	R5 決算額	差引
	453 万 9 千円	463 万 3 千円	△9 万 4 千円

1 地域防災拠点の運営支援

地域防災拠点運営委員を対象として、地域防災拠点の開設・運営などに関する研修会を令和5年6月、7月、10月に開催し、地域防災拠点における訓練を支援しました。また、女性の視点から安心安全な避難所生活を送るための備品を充実させるため、新たにセンサーライト等を全27拠点に9月に配置しました。

- ・都筑区地域防災拠点運営委員会連絡協議会（5月25日）

- ・地域防災拠点運営委員研修会

- 第1回 6月25日（出席者15人）

- 第2回 7月2日（出席者22人）

- 第3回 10月28日（出席者24人）

- ・各地域防災拠点にセンサーライト243個（9個／拠点）及び防犯ブザー270個（10個／拠点）等を配置（9月）



《センサーライト》 《防犯ブザー》

2 自治会町内会等向け出前講座、防災・減災講演会の開催

自治会町内会・小中学校等を対象とした出前講座や区民向け防災・減災講演会を開催し、大規模地震や風水害への備えなどの知識の向上や防災・減災に関する意識啓発を図りました。

- ・出前講座：22回（参加者986人）

- ・防災・減災講演会（12月1日実施）（参加者84人）

※参加者アンケートの結果：

「とてもよかった」、「よかった」と回答された方が93%となり好評でした。



《出前講座の様子》



《講演会の様子（安田大サーカス 安田氏）》

3 防災マップの多言語化

災害に対する避難行動や事前の備えについて、外国人の方々の知識・理解の促進を図るため、都筑区防災マップの多言語化（英語・中国語・韓国語）（11月）を進め、区のホームページに掲載しました。

4 災害時要援護者支援事業（つづき そなえ事業）

要援護者支援の取組の必要性や進め方に関する講演会を、区民や自治会町内会役員等を対象に開催しました。（2月17日 つづき あいフォーラム講演会として実施）

各地域の実情に合わせ災害時要援護者支援の取組が進むよう、自治会町内会単位での取組の進め方等の説明会を開催するとともに、連合町内会自治会による取組に対しては、補助金を交付しました。

また、行政が保有する災害時要援護者名簿の提供を推進しました。

- ・補助金交付地区：13 地区、行政名簿の提供先：3 連合 2 自治会

5 今すぐ取り組む健康づくり

健康づくりの観点から災害の備えを促すため作成した「食の備蓄」「口腔ケア」「衛生対策」に関する冊子「災害時にも役立つBOOK」を活用し、保健活動推進員や食生活等改善推進員等と連携して啓発を行いました。

- ・啓発：6 回実施、参加人数 123 人

※参加者アンケートの結果：

災害時の備えを見直そうと思ったと回答した割合 97%



《保健活動推進員による啓発》

6 災害時のペット対策事業

災害時のペット避難について、飼い主一人ひとりが適した方法を自ら考えられるよう、飼い主向け講演会や「我が家のペット防災展」を実施し、飼い主に対する啓発を進めました。また、地域防災拠点においてペット同行避難を受入れしていただけるよう、ペット避難所開設キット（受付物品等）を配布し、各拠点の取組を支援しました。

- ・「我が家のペット防災展」：9月20日～26日
- ・ペット避難所開設キットの配布：22 拠点
- ・ペット防災講演会：9月23日（参加者 29 人）

※講演会参加者アンケートの結果：回答者全員が非常に良かった・良かったと回答し、災害への意識が高まったと考えます。



《ペット避難所開設キット》



《ペット避難所開設キットの内容》

12 安全・安心なまちづくり事業	R5 予算額	R5 決算額	差引
	958 万 3 千円	935 万 6 千円	22 万 7 千円

1 交通安全運動

都筑区交通安全対策協議会を中心に、都筑警察署等関係機関・団体と連携しながら交通安全運動を実施しました。さらに、日々の交通安全運動に貢献された皆様に顕彰しました。

また、子どもたちの安全・安心のため、学校や警察と連携し、スクールゾーン標示の整備や交通安全啓発等を実施し、各小学校のスクールゾーン・防犯対策協議会の支援を行いました。

- ・交通安全運動：年間11回実施
- ・はまっ子交通あんぜん教室：10校（5月～11月）
- ・スクールゾーン・防犯対策協議会の開催
24校（区内22校+区外2校）で6月～11月に順次開催



《交通安全功労者表彰式》



《はまっ子交通あんぜん教室》

2 放置自転車対策事業

自転車等放置禁止区域（センター南、センター北、仲町台、都筑ふれあいの丘、北山田、東山田、中川、川和町、鴨居の各駅周辺）において適切な自転車利用を行うよう、監視指導を行う監視員を配置しました。10月には駅周辺で啓発チラシ等を配布し、放置自転車防止等呼びかける放置自転車クリーンキャンペーンを行いました。

3 地域防犯活動推進事業

地域防犯活動を行う自治会町内会及び地域の自主防犯のための青色回転灯パトロール隊に対し助成金を交付するとともに、研修会を行うなど活動を支援しました。

- ・防犯研修会：10月15日 都筑警察署



《青パト出陣式の様子》

主な増減	放置自転車対策事業について、監視委託業務の入札による委託費の減
------	---------------------------------

13 広報・広聴事業	R5 予算額	R5 決算額	差引
	172 万 2 千円	119 万 5 千円	52 万 7 千円

1 インターネット広報

区ホームページや SNS（X、LINE）を活用し、区政情報や各種イベント情報の発信、オープンデータの提供などを行いました。

2 PR ボックスの活用

毎月 1 日、全駅の PR ボックス見開き掲示板に広報紙の最新号を掲示しました。

また、毎月 15 日に広報印刷物の補充を行い、イベント・お知らせ等を周知しました。



《センター南駅設置の PR ボックス》

3 都筑区ハンドブック発行事業

区役所業務や区内の施設情報などを紹介する都筑区ハンドブックについては、紙媒体の発行を終了し、ホームページにて掲載しました。区内転入者向けには冊子の配布終了後、ホームページの案内チラシを作成しました。（3月）



《ホームページの案内チラシ》

4 主要事業の広報

広報よこはま都筑区版や区民ホールでのパネル展示により、区の主要事業の広報を行いました。（5月25日～6月1日）



《パネル展の様子》

5 記録兼広報用写真・動画撮影事業

区内の公園や建物、地域行事等の記録兼広報用写真・動画の撮影及びドローンでの撮影を行い、PR 動画を作成しました。（3月）



《PR 動画サムネイル》

6 広聴事業

各種広聴制度を活用し、区民の方や区内で活動する団体等の方から様々な意見を伺うことで、地域における課題やニーズの把握に努めました。

主な増減	PR ボックスメンテナンス委託の見積合わせによる残
------	---------------------------

14 スムーズ区役所事業 拡充	R5 予算額	R5 決算額	差引
		1,268 万 1 千円	1,297 万 4 千円

1 デジタル環境推進事業

横浜DX戦略に基づきデジタル化を推進するため、庁内のICT環境の整備を図り、区民サービス向上や業務効率化につなげました。

- ・区民の方を交えた会議や講演会等でも使用する6階会議室のインターネット接続用無線LAN環境の整備をしました。(8月)
- ・会議室及び執務室の会議用モニター等の拡充を実施しました。(2月)



《WEB 会議の様子》



《会議用モニター》

2 区庁舎環境改善

区民の皆様が快適に利用できるよう、区庁舎内1階男性用トイレの洋式化(女性用トイレはすべて洋式化済)や2階赤ちゃん休憩室の電気温水器の更新等を行いました。

3 税理士による確定申告受付事業

確定申告の期間中(2月16日~3月15日)のうち10日間、区民の皆様身近な区役所において、専門知識を持つ税理士の協力を得て確定申告(医療費控除の還付申告)に係る申告書の作成支援・受付を行いました。

4 来庁者サービスアップ事業

来庁者が利用しやすい窓口になるよう、こども家庭支援課に窓口案内員を配置しました。(配置時間:8時45分~17時)

また、お子さま連れの来庁者が待ち時間にお子さまと過ごせる場所を提供しました。



5 人権啓発講演会

人権意識の向上を目的として、区民の皆様及び職員を対象とした人権啓発講演会を、都筑公会堂で実施しました(1月)。また、録画したものを編集しオンライン配信しました(3月)。(合計参加者:620人)

※参加者アンケートの結果:「とてもよかった」、「よかった」 89%



《 5 年度人権啓発講演会の様子 》

1 月 24 日実施

金澤 翔子氏・金澤 泰子氏「ダウン症の娘と共に生きて」

主な増減	庁舎内トイレの環境改善や機器更新等による修繕料の増
------	---------------------------

施策2 活力とにぎわい、魅力あふれるまち

15 横浜ビー・コルセアーズを活かした ホームタウン活動推進事業 新規 拡充	R5 予算額	R5 決算額	差引
	320 万円	295 万 4 千円	24 万 6 千円

1 ダイバーシティスポーツイベント

小中学生やファミリー層を主な対象とし、地域活動団体や地元企業、横浜ビー・コルセアーズ等プロスポーツと連携しながら、誰もが楽しめる新しいスポーツイベントを令和6年2月に初めて開催しました。

5年度は取組のスタートとして、障害児支援や在住外国人支援で実績のある NPO 法人及びスポーツ推進委員、青少年指導員等で構成する実行委員会を立ち上げました。同体制の下、多文化共生イベントにおけるスポーツ体験の場の提供や、誰もが楽しめる新しいユニバーサルスポーツイベントの企画を行いました。

※ダイバーシティスポーツイベント参加者アンケートの結果：

イベント目的やダイバーシティスポーツの理解度について、回答者の平均が参加前は10点中5.8でしたが、参加後は8.2に向上し、理解度を深めることになりました。



《ダイバーシティスポーツイベントの様子》

2 都筑区グラウンドゴルフ大会

横浜ビー・コルセアーズ協賛のもとグラウンドゴルフ大会を開催し、シニア層へのチームの認知度向上及びプロスポーツチームとの協働による地域の一体感醸成を図りました。

実施日：6月4日 参加者156人、来賓26人、従事者67人



《大会の様子》

3 ホームタウン広報

「都筑区応援 Day」の開催や、区庁舎での広報など、都筑区全体で横浜ビー・コルセアーズのホームタウン活動を推進する機運を醸成し、街の一体感の創出と地域の活性化を図りました。

B. LEAGUE 2022-2023 シーズンでのチャンピオンシップ進出に伴い、センター南すきっぷ広場でのパブリックビューイングイベントをチームと共に開催しました。

実施日：5月14日



《パブリックビューイングの様子》



《応援 Day の様子》



《区庁舎装飾》

主な増減	ホームタウン広報事業について、広報等の委託費の減
------	--------------------------

16 文化とスポーツであふれるまちづくり 推進事業	R5 予算額	R5 決算額	差引
	164 万 4 千円	159 万 1 千円	5 万 3 千円

1 つづきユースフェスティバル

従来実施していた「つづきウォーク&フェスタ」をリニューアルし、地域で活動する青少年が主役となり吹奏楽やダンス等の文化活動を区民に向けて披露する「つづきユースフェスティバル」の開催を支援することで、文化活動発表の場の提供による青少年の自己表現機会の創出を図りました。

実施日：11月23日、都筑公会堂

出演数：11団体 約420人



《つづきユースフェスティバルの様子》

2 都筑区民文化祭事業

区民及び区内活動団体が自主的に運営する「都筑区民文化祭」の開催を支援し、区民が広く文化に親しむ機会を創出しました。

キャッチフレーズ「笑顔いっぱい つづき かわいくてごめん」

第28回都筑区民文化祭：1月20日～2月4日

- ・オープニングセレモニー：1月20日、都筑公会堂
- ・展示部門：1月20日～2月4日、都筑区民ホール
- ・舞台部門：1月21日・27日・28日、2月3日・4日 都筑公会堂



《オープニングセレモニー》



《舞台部門》



《展示部門》

3 都筑スポーツ・文化賞事業

スポーツ・文化の分野においてめざましい活躍、顕著な功績のあった都筑区にゆかりのある方々を表彰し、さらなる活躍を期待するとともに、スポーツ・文化活動への関心を高めました。

令和5年度都筑スポーツ・文化賞表彰式：1月6日

受賞者 個人：7人 団体：2団体



《表彰式の様子》

4 スポーツ協会活動補助事業

各種スポーツ大会や講習会を開催する都筑区スポーツ協会に対し補助を行い、スポーツ、レクリエーション活動を振興し、区民の健康増進と相互の親睦を図りました。

17 区民の交流促進事業（区民まつり・ドイツクリスマスマーケット）	R5 予算額	R5 決算額	差引
	572 万 9 千円	572 万 9 千円	0 万円

1 都筑区民まつり

区民の皆様へ地域に対する愛着やふるさと意識を醸成していただけるよう、自治会町内会や区内の各種団体などから構成される都筑区ふるさとづくり委員会とともに、「第 29 回 都筑区民まつり」を 11 月 3 日（金・祝）に都筑区総合庁舎及びセンター南駅周辺で開催しました。



《第 29 回都筑区民まつり》

2 都筑・ドイツ交流イベント事業

在住ドイツ人の多い都筑区で日独の相互理解の促進を目的に、地元商業振興会や自治会町内会、東京横浜独逸学園、ドイツ企業等と連携し、センター北駅前の芝生広場を会場に「ドイツクリスマスマーケット in 都筑 2023」を開催しました。（12 月 9 日・10 日）



《ドイツクリスマスマーケット in 都筑 2023》

18 在住外国人支援・国際交流事業 拡充	R5 予算額	R5 決算額	差引
	295 万円	388 万 1 千円	△93 万 1 千円

1 在住外国人支援事業

多言語による情報提供及び相談対応を実施するとともに、増加する在住外国人を支えるため、ボランティアを育成しました。言語の壁が原因で学習に課題を抱える子どもたちに対し、学校と連携した学習支援及び相談の居場所を提供しました。また、学習支援対象を高校生まで拡充することで切れ目のない支援を実施しました。文化的背景の違いによる課題を解決するため、各種機関及び団体と連携し、多文化共生に関する理解の普及啓発を図りました。

- ・「KANJI クラブ」外国につながる子どものための学習補助事業（週 1 回程度）
- ・区民が多文化共生について学ぶセミナーの実施（8 月 11 日、48 人）
- ・日本語ボランティア連絡会の実施（月 1 回）、養成講座の実施
- ・DE&I FESTIVAL の開催（10 月 1 日）、プラザまつりの開催（3 月 10 日）

※ DE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）とは、Diversity（多様性）、Equity（公平性）、Inclusion（包括性）の 3 つを合わせた言葉です。国籍や障害の有無にかかわらず、多様な人が、公平な機会のもと、違いを尊重しあい、力を発揮できる環境を実現するという概念です。



《KANJI クラブ終了式の様子》



《DE&I フェスティバルの様子》

2 国際交流事業

「都筑・ボツワナ交流児童画展」が10周年を迎えるにあたり、ボツワナ共和国大使館、在ボツワナ日本国大使館協力のもと、国際局と連携し、「都筑・ボツワナ アニバーサリーイベント」を開催しました。横浜市立茅ヶ崎小学校とボツワナ共和国ベン・テマ小学校の貴重な絵画交流の歩みを市民の皆様と分かち合える事業を実施するとともに、児童画を中心とした交流の更なる発展と、多文化理解及びグローバル教育の推進を図りました。

- ・国際理解教室（ボツワナ大使出席）：6月22日、茅ヶ崎小学校、161人
- ・茅ヶ崎小学校とベン・テマ小学校を結んだオンライン交流の実施：10月17日
- ・都筑区役所区民ホールでの児童画展の実施：12月20日～27日
- ・横浜市庁舎アトリウムでのセレモニーの実施及び児童画展の実施：2月14日～26日
- ・児童画交流の歩みや関係者の声をまとめた動画の作成及び活用



《ボツワナ大使と交流する様子》



《国際理解教室の様子》



《オンライン交流の様子》



《日本通運株式会社への感謝状贈呈》



《アニバーサリーイベントの様子》

主な増減

国際交流事業において、都筑・ボツワナ交流児童画展10周年記念事業の拡大に伴う委託費の増

19 メイドインつづき推進事業	R5 予算額	R5 決算額	差引
	364 万円	322 万 2 千円	41 万 8 千円

1 中小製造業支援

(1) 販路開拓・企業間連携支援

県下最大級の工業技術見本市「テクニカルショウヨコハマ 2024」に「メイドインつづき」ブースを出展し、参加企業の技術・製品を PR しました。(2月7～9日、延べ来場者数：18,176人)

また、共同展示スペースでは、企業の技術を活かした様々なワークショップを行い技術力の高さを PR しました。



《共同展示スペースの様子①》



《共同展示スペースの様子②》

(2) 参加企業と連携した PR 活動

子どもたちがものづくりを体験できるワークショップを開催するほか、参加企業による地域貢献活動の取組を広く発信することで、住環境と操業環境が調和した住工共生のまちづくりを推進しました。

また、5年度は新たに金沢区及び金沢区立地企業と連携したイベントを市庁舎アトリウムで実施し、「メイドインつづき」の更なる認知度向上を図りました。(8月1日開催・参加者数：延べ1,500人)

※参加者アンケートの結果 (n=108人) :

イベントの満足度「とてもよかった、よかった」 約64%



《イベントの様子①》



《イベントの様子②》

2 地産地消の推進

都筑野菜朝市（概ね月4回）、都筑野菜グルメスタンプラリー（10～11月）等、都筑野菜の認知度向上のための取組を通じて地産地消を推進しました。また、都筑野菜の新鮮さや美味しさを知っていただく機会として、港北 TOKYU S.C. と連携し、区内農家による都筑野菜の直売と都筑野菜を使った料理の試食を行う「都筑野菜マルシェ」を開催しました。（11月11日）



《朝市の様子》



《都筑野菜マルシェの様子》

主な増減	地産地消の推進について、区配予算の活用に伴う委託料の残
------	-----------------------------

20 商店街の魅力発信事業 拡充	R5 予算額	R5 決算額	差引
	84 万円	82 万 2 千円	1 万 7 千円

1 商店街の魅力発信事業

都筑区商店街連合会とともに区内商店街の効果的な魅力発信方法について検討を行い、商店街を核とした賑わいづくりへの支援として、3月にSNSを活用した「Let's Go 商店街」を実施しました。

また、広報よこはまで「つづきたい」ちゃん（都筑区商店街連合会公式キャラクター）をPRするほか、商店街主催のイベント等で一緒に盛り上げました。



《商店街魅力発信事業「Let's Go 商店街」》

施策3 花と緑にあふれ、豊かな環境を育むまち

21 環境にやさしいまち推進事業	R5 予算額	R5 決算額	差引
	98万4千円	95万4千円	3万円

1 エコ活の推進

親子向け体験型ワークショップ、食品ロス・プラスチック問題の解決に向けたきっかけづくり、家庭で取り組む3R（発生抑制、再使用、再生利用）行動の紹介等を通して、環境に優しい生活を啓発するイベントを開催しました。（3月2日・参加者約200人）

※参加者アンケートの結果（n=61人）：

新たにエコ活動を実施しようと思った」 約80%

また、区庁舎に設置されている、窓際でつる性の植物をカーテンのように育て日光を遮る緑のカーテンの維持管理を行うとともに、区内公立小中学校を対象に緑のカーテンの設置支援を行いました。（9校）



《エコ活フェアの様子》



《緑のカーテン報告パネル展》

2 クリーン・ヨコハマ3R夢推進事業

(1) クリーン推進事業

きれいな街を推進するため、自治会町内会等が実施する地域清掃の支援、駅周辺のポイ捨て防止啓発、農業専用地区等の不法投棄防止対策の支援を行いました。

- ・清掃ごみ袋配付による地域清掃の支援：83団体
- ・センター南駅前ポイ捨て防止キャンペーン：11月
- ・農業専用地区一斉清掃：池辺（1月）、新羽大熊（12月）、佐江戸宮原（11月）



《ポイ捨て禁止キャンペーン》



《農業専用地区等の不法投棄防止支援》

(2) ヨコハマ3R夢推進事業

3R行動推進のため、つづき3R夢週間をはじめとする各種イベントや赤ちゃん会など様々な機会を活用した区民等への啓発、「都筑区の子どもの読書活動支援」を目的とした市民団体との協働により、区民の皆様から読まなくなった本を回収し、区内小学校へ配付しました。

また、フードドライブの推進など食品ロス削減につながる取組を資源循環局等と連携し進めました。

- ・つづき3R夢週間パネル展・イベント：7月12日～7月19日、2月29日～3月6日
（7月15日 区民ホールでイベント実施：啓発物品配布120人）
（3月2日 区民ホールでイベント実施：啓発物品配布120人）
- ・赤ちゃん会での3R夢啓発：9月～3月（18会場）
- ・リユース図書の配付：11月（区内小学校18校）
- ・フードドライブ活動：一般のご家庭から提供いただいた食品を区社協を通して地域の子ども食堂や食の支援を必要としている方へ1,256点提供



《つづき3R夢週間パネル展・イベントの様子》

3 都筑区地球温暖化対策・3R夢推進会議

街の美化や3R夢普及啓発の取組が顕著だった団体・個人を表彰しました。また、温暖化対策・3R夢に関する会議については、横浜市の「ヨコハマ3R夢」推進会議の中止に伴い、書面開催としました。

- ・表彰式（5団体、9個人）：5月29日



《表彰式の様子》

22 みんなで花と緑のまちづくり事業 拡充	R5 予算額	R5 決算額	差引
		370 万 1 千円	314 万円

1 都筑区花いっぱい運動の推進

都筑の四季折々の写真を対象としたフォトコンテストを開催しました（応募 263 点）。また、入賞作品を素材とした 2024 年カレンダーを制作し、区民等に配布しました。
（1 月、2,000 部）



《2024 年カレンダー》

2 「^{はやぶちがわ}早淵川・^{ろうばやと}老馬谷ガーデン（HRG）」の維持・管理

地域及び東京都市大学と連携し、早淵川沿いの緑の拠点である HRG の維持・管理に取り組みました。



《地域と大学生による手入れ》

3 「都筑区水と緑の散策マップ」の活用

「都筑区水と緑の散策マップ」を活用し、都筑区の環境資源の魅力を市民に発信しました。

また、地図の時点更新や使いやすさ向上のため、改訂に向けた版下作成を行いました。



4 みどりとみちのパートナーの推進

身近な道路や公園等を清掃、維持管理するボランティア団体（ハマロード・サポーター、公園愛護会、水辺愛護会）や個人に対して花苗や清掃用具等を提供しました。

また、パネル展（7 月 4 日～11 日）等での活動紹介や担い手を増やすための広報を行い、活動の活性化を図りました。

団体数：205 団体（ハマロード・サポーター 50 団体、公園愛護会 152 団体、水辺愛護会 3 団体）※令和 5 年度末時点



《パネル展》



《江川せせらぎ緑道のサンパチェンス》



《ハマロード・サポーター》

主な増減	「都筑区水と緑の散策マップ」更新業務委託に係る委託料の執行残
------	--------------------------------



※都筑区のマスコットキャラクター「つづき あい」
第4期都筑区地域福祉保健計画推進・啓発バージョン

資料 2

令和 6 年度

都筑区自主企画事業の

執行状況について

令和 6 年 9 月 6 日

都 筑 区

目 次

令和6年度 都筑区自主企画事業説明書

施策1 子育て世代をはじめ、あらゆる世代が住み続けたいと思えるまち

1	都筑区制30周年記念事業	新規	W	3	
2	妊娠期から学齢期までの切れ目のない子育て支援事業	新規	拡充	W	5
3	つづき健康づくりサポート事業	拡充	W	10	
4	食と暮らしの安全推進事業	W	12		
5	自治会町内会の地域運営応援事業	W	15		
6	地域活動の活性化事業（区民活動センター・読書活動・青少年のボランティア）	拡充	W	17	
7	都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」推進事業	W	21		
8	障害者交流啓発事業	新規	W	N	23
9	まちづくり総合調整事業	W	N	25	
10	危機管理対策推進事業	W	28		
11	災害にそなえる自助・共助の推進事業	W	29		
12	安全・安心なまちづくり事業	W	33		
13	広報・広聴事業	W	35		
14	スムーズ区役所事業	W	36		

施策2 活力とにぎわい、魅力あふれるまち

15	横浜ビー・コルセアーズを活かしたホームタウン活動推進事業	W	38	
16	文化とスポーツであふれるまちづくり推進事業	W	40	
17	都筑区民まつり支援・地域の賑わいづくり事業	W	42	
18	在住外国人支援・国際交流事業	拡充	W	43
19	メイドインつづき推進事業	W	N	45

施策3 花と緑にあふれ、豊かな環境を育むまち

20	環境にやさしいまち推進事業	W	N	47	
21	みんなで花と緑のまちづくり事業	拡充	W	N	49

※ **W** はウェルビーイング（WELL-BEING）、**N** はネイチャーベースドソリューション（Nature based Solution）に資する事業です。

※下線部は、6月開催の第2回区づくり推進横浜市会議員会議からの変更点です。
 ※事業説明書内に記載されている日程は変更になる可能性があります。

施策1 子育て世代をはじめ、あらゆる世代が住み続けたいと思えるまち

	R6 予算額	R5 予算額	増△減
1 都筑区制 30 周年記念事業 新規	887 万 5 千円	0 円	887 万 5 千円

区制 30 周年を記念した各種取組を実施するほか、その取組を区民の皆様にも広く周知します。また、周年イベント等に関わる関係団体等の支援、区民参加型の環境づくりに取り組みます。



1 都筑区制 30 周年記念式典

区制 30 周年を記念し、都筑区のまちづくりに尽力された区民への感謝の機会として式典を開催します。式典は二部制で行い、第一部では区民栄誉賞等の表彰式や感謝状の贈呈式を、第二部では、劇団かかし座による多世代の人が楽しめる公演を行います。（11月9日）

2 都筑区制 30 周年記念 つづきてくたくスタンプラリー

都筑区ならではの公園・緑道を巡り、自然あふれる魅力を再発見するスタンプラリーを開催します。手軽に参加できるよう、参加者のスマートフォンを活用したデジタルスタンプラリーとします。（11月1日～11月30日）

3 都筑区制 30 周年を契機とした子どもたちが学ぶ伝統芸能ワークショップ

地域に根づく伝統文化の共有と次世代への継承という観点から、和楽器（琴・小鼓・琵琶・口琴）体験と本格的な演奏の鑑賞ができるワークショップを都筑区在住・在学の小・中学生を対象に横浜市歴史博物館で開催し、子どもが伝統芸能に親しむことができる機会を創出します。（9月23日）



4 都筑区制 30 周年記念 キッズスタンプラリー

都筑区内の子育て支援関連施設（地域子育て支援センターPopoLa、市立保育所、民間保育所の子育て広場、親と子のつどいの広場、地域の子育てサロン等）を巡るスタンプラリーを実施します。スタンプラリーをきっかけとして区内に多数ある施設を知って、利用していただくことで、地域で安心して子育てができる環境の醸成につなげます。（10月26日～11月30日）

5 都筑区制 30 周年記念特設サイトの運用及び SNS を活用した投稿キャンペーンの開催

都筑区での日常、都筑区につながること（区内の施設やスポット、イベント等）などについて、ハッシュタグ「#my つづき」をつけて投稿していただく「my つづき Instagram キャンペーン」を開催しています。（7月26日～12月31日）



また、「#my つづき」をつけてInstagramに投稿された画像については、「みんなの“my つづき”」として、「都筑区制 30 周年記念特設サイト」に掲載しています。

6 都筑区制 30 周年記念給食における記念品の配付（若手職員による区内プロジェクト）

都筑野菜を使用した区制 30 周年記念給食の実施とあわせて、区内市立小学校の全校児童に若手職員による区内プロジェクトが考案した給食袋を記念品として配付し、地産地消の推進及び「都筑愛」の醸成を図ります。（11～12 月）

7 都筑区制 30 周年啓発グッズ等の作成

区制 30 周年の周知及び機運の醸成を図るため、啓発グッズ等を作成します。



《都筑区制 30 周年及び GREEN×EXPO 2027（2027 年国際園芸博覧会）オリジナルステッカーを郵便車両に貼り PR を実施》

2 妊娠期から学齢期までの切れ目のない 子育て支援事業 新規・拡充	R6 予算額	R5 予算額	増△減
	1,422 万 5 千円	1,331 万 9 千円	90 万 6 千円

地域、保育・教育施設、学校、関係団体と連携し、子育て支援のネットワークの充実、育児不安を抱える養育者への支援、様々な課題を抱えた子ども達の居場所づくり及び地域の親子の仲間づくりや身近な相談ができる環境の提供など、妊娠期から学齢期までの切れ目のない子育て支援に取り組みます。

1 夫婦で子育て応援事業

就労をしている妊婦やパートナーが参加しやすいように、休日開催の両親教室を地域子育て支援センターPopola（以下「ポポラ」）及びポポラサテライトで実施します。

また、区民意識調査の結果からも、多くの方が身近な場所での子育て支援を求めていることが分かっており、妊娠期から地域資源につながるきっかけの一つとして、区内地域ケアプラザにおいても新たに両親教室を開催します。

- ・ポポラ：毎月第4土曜日、年12回 参加人数延べ47組（7月末）
- ・ポポラサテライト：毎月第2土曜日、年12回 参加人数延べ31組（7月末）
- ・地域ケアプラザ：全6か所で年2回ずつ開催 参加人数延べ20組（7月末）



《休日両親教室の様子》

2 0歳児地域育児教室（赤ちゃん会）

転入者が多い都筑区の子育て世代からのニーズを踏まえ、赤ちゃん会の対象を第1子に加え第2子以降にも拡大して、引き続き仲間づくりや育児相談を行う機会を提供します。



《赤ちゃん会の様子》

- ・18 会場 198 回（8月を除く毎月実施） 参加人数延べ 1,132 人（7月末）

3 子育てネットワーク事業

地域の子育て支援の充実を図るため、関係機関との情報交換を行うほか、広く子育て支援に関わる方が参加する交流会を行います。



《子育てネットワーク交流会の様子》

- ・子育てネットワーク会議：第1回5月31日開催 参加人数24人
第2回2月14日
- ・子育てネットワーク交流会：12月2日

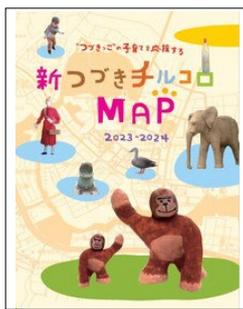
4 育児不安を抱える養育者への支援

育児不安を抱える養育者を対象に、電話や訪問等で継続的な支援を行うとともに必要に応じて心理士が個別の相談に対応します。また、2歳児のイヤイヤ期への対応について学ぶ「2歳児講座」を開催します。さらに、1歳6か月健診において発達状況への課題を指摘され、2歳になるまでの間に不安を抱える養育者が多いことから、発達に不安を抱える2歳前の子と親を対象に、親子で参加し心理士のアドバイスを受けられる遊びの教室「たんぽぽクラブ」を開催します。

- ・2歳児講座
第1回4月23日（参加13人）
第2回8月7日、第3回10月30日、第4回2月26日
- ・たんぽぽクラブ
月1回（5月・11月を除く毎月実施） 参加人数延べ22組（7月末）

5 区民による子育て情報冊子の作成（つづきチルコロMAP）

区民から寄せられた外遊びや公園、子育て支援に関する情報等を掲載した冊子（つづきチルコロMAP）をポポラと協働して更新し、発行します。



6 乳幼児健診受診サポート事業

乳幼児健診において新たに保育ボランティアを配置し、妊娠中の方のサポートや同行したきょうだい児の見守りなどを行うことにより、保護者の負担軽減につながり、誰もが受診しやすい環境づくりを進めます。

- ・見守りスペースの利用 8組（7月末）
- ・付き添い対応 56組（7月末）

7 身近な拠点における多世代交流推進事業

都筑区は子育て世代の転入が多く、区民意識調査の結果からも、身近な場所での子育て支援が求められています。そこで、子どもを連れて出かけやすい、地域ケアプラザなどで多世代交流を始めとする取組を行うことで、子育て世帯が地域の人と知り合い、地域とのつながりが築ける支援を進めます。

また、地域ケアプラザなどでの多世代交流の取組参加者に、子育てサポートシステムの周知と説明会の案内を行うことで、制度の認知度を上げ、提供会員のさらなる増加につなげます。

- ・事業スケジュール

4月～8月 エリア分析、エリア別アプローチ方法の検討

9月～3月 エリア別事業実施、効果検証



《中川地域ケアプラザでの多世代交流の様子》 《子育てサポートシステム
を利用した送迎の様子》

8 おひさま広場（園庭開放）

市立保育所が、子育て中の保護者にとって地域の身近な子育て支援機関となるよう、園庭開放を行います。子育て経験のある保育協力者を配置して見守りがある中で、季節の遊びを取り入れながら子どもを安全に遊ばせるとともに、保護者の育児相談などを行います。

- ・おひさま広場：週5日（月～金曜日） 市立保育所4園
4園計196回実施、参加者延べ1,767人（7月末時点）
- ・おひさままつり：5月17日 みどり保育園 参加38組76人
5月24日 茅ヶ崎南保育園 参加35組77人

9 積木交流（つみきのつづき）

都筑区では、「つみきのつづき」をキャッチフレーズとして、市立保育所に合計2万個の積木を用意して積木遊びに力を入れています。積木遊びを地域の子育て世帯や民間保育・教育施設に広め、積木と親しんでいただけるように、地域の親子向けの育児講座や施設への積木の貸出、公開保育等を行い、子どもたちに豊かな体験を提供します。

- ・積木であそぼう！～公民合同育児講座～ 10月26日 区民ホール
- ・積木であそぼう！ 令和7年1月（予定） ノースポート・モール



《区民ホールでの「積木であそぼう！」の様子》

10 潜在保育士の保育士体験

将来的な保育士確保を目的として、保育士資格を持っていても現在は働いていない方や将来保育士資格を取得して働きたいと考えている方を対象に、市立保育所で保育士体験を行います（9月～）。

11 地域が支える子ども達の居場所づくり事業

様々な課題を抱えた小中学生を対象に、生活習慣や学習習慣を身に付けられるきっかけとなるよう、地域の協力を得て、居場所づくり事業を実施します。また、送迎の必要がある児童等の支援を行います。（南部方面で実施、原則毎週火曜日）

参加人数延べ55人（7月末時点）

12 学齢期の子どもや保護者への支援

小学校入学を控え、学校生活やPTA、放課後の預け先などに不安を感じる、いわゆる「小1の壁」に直面する保護者も多くいます。こうした不安の軽減につながるよう、未就学児のいる保護者を対象とした講演会（動画配信を含む）や、子どもが同じ小学校に通う予定の保護者や先輩保護者との情報交換会を各小学校PTA等の協力のもと開催し、インターネット等では収集しづらいリアルな情報を提供します。

- ・「小学校入学前に知っておきたい大切なこと～今から備える「小1の壁」～」（講演会及び情報交換会）：9月14日
- ・講師：小栗 ショウコ 氏（認定NPO法人あっとほーむ 代表理事）



《情報交換会の様子》

【再配当事業】 母親（両親）教室（こども青少年局）

妊娠・出産・育児について正しい知識を身につけるために母親（両親）教室（平日月1コース3回）を実施します。

【再配当事業】 児童虐待防止啓発地域連携事業（こども青少年局）

児童虐待の予防、関係機関の対応力向上のため、未就学児、学齢児の関係機関に向けたテーマ別研修動画を配信します。

【再配当事業】 放課後児童育成事業（こども青少年局）

すべての子どもたちに豊かな放課後を過ごせる場所と機会を提供するとともに、増加する留守家庭の子ども達の居場所を充実させるため、小学校施設を活用した放課後キッズクラブや放課後児童クラブ（学童）の運営を支援します。

【再配当事業】 寄り添い型生活支援事業（こども青少年局）

養育環境に課題がある世帯の子どもとその保護者を対象に、生活指導による日常生活習慣の改善や、学習支援による学力定着を図るための支援を行います。（区内北部で実施）

【再配当事業】 保育所・幼稚園・認定こども園子育てひろば事業（こども青少年局）

施設の地域開放、子育て相談、育児講座、園児との交流保育等を実施します。

【局事業】 身近な地区センターにおける親子が集う場の創出（市民局）

地区センターのプレイルームにおいて、絵本や本棚、知育玩具等の整備や、プレイルームの認知度アップに取り組みます。

都筑区においては仲町台地区センター、中川西地区センターが本事業の対象であり、事業者は市民局による公募型プロポーザルにより「フレーベル館」に決定しました。リニューアルが完了するのは10月末の見込みとなります。

3 つづき健康づくりサポート事業 拡充	R6 予算額	R5 予算額	増△減
	203万9千円	270万5千円	△66万6千円

区民の皆様が生涯にわたり健康であり続けられるよう、健康づくりに取り組む区民の活動をサポートします。また、活動に取り組みやすくなるよう環境づくりを進めます。

1 働く世代の健康推進事業

市民意識調査でバランスよく食べている区民の割合が減ってきている結果がでたことから、健康的な生活習慣を身に付けていただくため、働く世代をターゲットに職場等を通じて、健康づくりの支援を進めます。具体的には、横浜健康経営認証の取得支援や、健康づくりネットワーク連絡会*と連携して職場健診受診後のフォローや禁煙相談について情報提供をしています。

・第1回健康づくりネットワーク連絡会：7月30日

リーフレット「働く世代向け 都筑区医療・保健情報」の活用、乳がん啓発及び区民まつりでの連携について意見交換

*健康づくりネットワーク連絡会：都筑区の健康づくりの推進に関する意見交換を行う区内保健・医療・福祉の関係機関・団体及び民間事業者で構成された会議体

また、働く世代が多く利用するコンビニエンスストアやYouTube 広告で、「野菜プラス1品」を呼び掛け、継続的に野菜を摂取する動機づけを行う「ツズキ ベジタブル チャレンジ」を実施します。(9月1日～9月30日) コンビニエンスストアでの啓発は、横浜市と包括連携協定を締結している株式会社ローソンにて行います。



《コンビニエンスストア POP》



《YouTube 広告 動画イメージ》

2 がん予防啓発事業

区民ががんの早期発見・早期治療ができるよう、乳幼児健診や地域のイベント等でがんに関する知識や健診の必要性に関する啓発を行います。あわせて健康づくりネットワーク連絡会と連携してがん検診の普及啓発をします。



《乳がん自己触診体験の様子》

・3歳児健診保護者に対する乳がん健診普及啓発

：8回実施、乳がん自己触診体験者数 473人（7月末時点）

・ピンクリボンキャンペーン：10月5日 ららぽーと横浜（協力・会場）

・広報よこはま（11月号区版）での乳がん特集記事掲載

3 こどものお口の健康事業

乳幼児のむし歯予防に関する知識を普及するため、歯みがきの方法やむし歯予防の知識や手法を伝える教室を毎月区役所で実施するとともに、地域会場でも開催します。

また、上手に噛めない、飲み込めない、話せないなどの口腔機能発達不全について早期発見・対応ができるよう、保育園や学校等の関係機関・団体等への情報提供に加え、市ホームページ等を活用して保護者にも啓発を行います。

・はじめての歯みがき教室

：6回実施、参加組数34組（7月末時点）

・口腔機能発達に関するホームページの公開：12月



《はじめての歯みがき教室の様子》

4 こどもの食育推進事業

こどもの食生活に関する不安を軽減し、安心して育児ができるよう地区センターや地域ケアプラザなどの地域会場で食事相談を実施します。また、こどもの成長に応じた離乳食が進められるよう離乳食講座を開催します。さらに、こどもの健全な食生活を啓発するため、小中学校・保育園等と連携し、情報交換会や研修を実施します。

・子育て支援者会場等における相談

：食事相談7回実施、29組・歯科相談4回実施、21組（7月末時点）

・はじめての離乳食：4回実施、21組（7月末時点）

・カミカミ・パクパク離乳食講座：1回実施、5組（7月末時点）

・第1回食育情報交換会：7月12日 参加人数37人

5 地域の健康づくり応援事業

高齢者の健康づくりのため、区民向けのフレイル*予防講座を開催します。（12月9日都筑公会堂）また、地域の健康づくり活動の充実を図るため、保健活動推進員と食生活等改善推進員の地区活動の連携を促進します。

*フレイル：高齢期に体力や気力、認知機能など、からだところの機能（はたらき）が低下し、将来介護が必要になる危険性が高くなっている状態



《保健活動推進員と食生活等改善推進員の連携した活動の様子》

【再配当事業】がん検診啓発事業（医療局）

がんを早期発見・早期治療できるよう、リーフレット等を活用してがん予防啓発を行います。

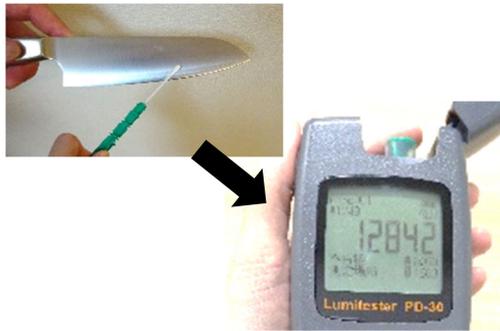
4 食と暮らしの安全推進事業	R6 予算額	R5 予算額	増△減
	65万6千円	90万6千円	△25万円

食の安全、暮らしの衛生、動物の適正飼育など安全で衛生的な暮らしの普及啓発を推進します。

1 食の安全確保事業

(1) 大規模商業施設や大量調理施設への監視指導の実施

都筑区には大規模商業施設内の飲食店や大量調理施設が多く、食中毒が発生した時に被害が大きくなるリスクがあります。定期的な監視にあわせて、調理器具等の洗浄度を数値化できる機器を用いながら助言を行い、自主衛生管理の推進を促します。



《洗浄度を数値化できる機器》



《監視指導の様子》

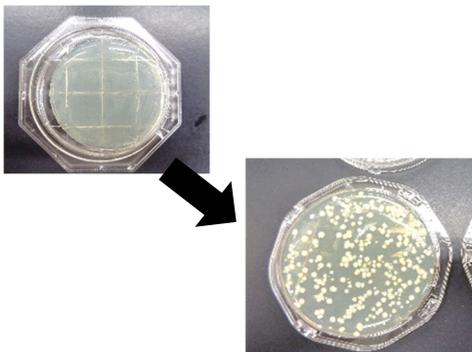
(2) 地域活動の担い手等への検査機器を用いた食品衛生に関する啓発

高齢者の見守りを目的とした配食サービスやこども食堂などのボランティアで食事を提供する団体に対し、衛生教育のためのツール（簡易的な微生物検査ができる培地）を用いて微生物を可視化することにより、わかりやすい啓発を行います。

6月～9月 社会福祉協議会関係ボランティア団体等への周知

10月16日 講習会実施

通年 出前講座（地区民生委員児童委員協議会等）



《微生物を可視化して衛生教育を行うための簡易培地》



《啓発講習会の様子》

都筑区食品衛生協会と協力して行う食中毒予防キャンペーンや、区民ホールでのパネル展、広報よこほまに記事を掲載するなどの方法により、食中毒予防啓発を行います。

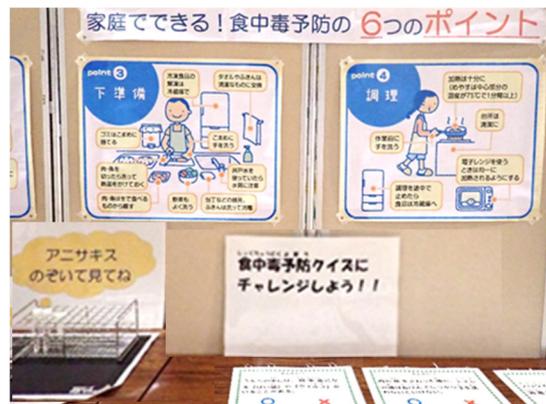
食中毒予防キャンペーン：7月31日 モザイクモール港北（正面入口横・4階広場）

来場人数 300人

食中毒予防パネル展：8月5日～13日 区民ホール（区役所1階）



《6年度 食中毒予防キャンペーン》



《6年度 食中毒予防パネル展》

上の2つのイベントにおいて区民の方を対象に「食の安全に関するアンケート」を実施しました。（回答数 226人）食の安全に関し保健所に最も期待する業務として、飲食店や食品製造施設の監視指導（120人）や、食品衛生に関する情報提供（50人）が挙げられていました。また、展示パネルの内容に沿った質問を設けたところ「生や加熱不十分の鶏肉を喫食しない」「生野菜はよく洗浄してから喫食する」「低温調理において十分に加熱するには時間を要する」のいずれの項目でも78%以上の方が食中毒予防のための行動や知識を身に付けていただいたことが分かりました。

2 暮らしの衛生確保事業

区民生活における猫・ねずみ・ハチの被害に対する支援として、被害防止器具の貸出しなどを行います。

第一四半期実績

- ・猫侵入防止器貸出：2件
- ・ハチの巣駆除機器の貸出：6件

3 動物適正飼育推進事業

人と動物が共に快適に暮らせる環境づくりを目指し、動物愛護及び適正飼育の推進を図ります。動物愛護週間では長寿ペット表彰、飼い主セミナーを実施します。また、区民まつり等において、ペットの飼育マナー及び適正な飼育などに関する啓発をします。

動物愛護週間：9月20日～26日

- ・区民ホールにて、ペット防災用品等や長寿ペット表彰パネル展示：9月20日～26日
- ・飼い主セミナーの開催：9月25日



《長寿ペット表彰パネル展示》

【局事業】食品衛生監視指導事業・食の安全強化対策事業（医療局）

食品関係施設への立入検査や食品などの検査により食中毒や違反食品の流通を防止するとともに、食品の適正表示を推進して食の安全・安心を確保します。

- ・肉を原因とする食中毒対策 ・社会福祉施設等の食品衛生対策
- ・アニサキスをはじめとする魚介類による危害発生防止対策
- ・検査による違反食品等の排除（残留農薬、アレルギー、食品添加物等）
- ・食中毒予防キャンペーン
- ・普及啓発、リスクコミュニケーション推進事業 など

【局事業】動物愛護普及啓発事業（医療局）

動物愛護思想や適正飼育の普及啓発を積極的に行うことで、飼い主不明の犬や猫の減少を目指し、人と動物との共生を推進します。

- ・動物の愛護及び正しい飼い方の普及啓発
- ・不妊去勢手術補助事業・地域猫活動支援事業 など

5 自治会町内会の地域運営応援事業	R6 予算額	R5 予算額	増△減
	372 万 3 千円	917 万円	△544 万 7 千円

自治会町内会を中心とした地域運営の総合力を高めるため、自治会町内会に対する各種支援を通じ、地域の活性化を図ります。あわせて、都筑区連合町内会自治会（以下「区連会」）と連携し、地域のつながりに資する取組や自治会町内会への加入を促します。

1 自治会町内会加入促進

地域のつながりづくりのため、5年度区連会で作成した自治会町内会魅力発信動画を地下鉄内で10月28日から11月3日まで放映、10月4日にららぽーと横浜内で自治会町内会のパネル展の実施、自治会町内会活動紹介冊子の改訂版の発行等、区連会等と連携しながら自治会町内会への加入促進を行います。



<自治会町内会魅力発信動画>

2 自治会町内会への情報提供

区連会定例会資料を、毎月（8月と12月を除く）、各自治会町内会あてに配送し、区連会ホームページに掲載します。

3 自治会町内会長感謝会

自治会町内会長感謝会を開催し、永年にわたり尽力された会長へ感謝状を贈呈するとともに各自治会町内会長へ、感謝の意を表します。（3月）

【再配当事業】自治会町内会館整備費補助事業（市民局）

自治会町内会が整備する会館の建設費等の一部を補助します。補助メニューは、新築・増築・耐震補強工事・修繕で、整備費の2分の1を補助します。なお、工事費の高騰を受け、補助上限額を25%引き上げ自治会町内会館の整備に対する負担を軽減します。

【再配当事業】自治会町内会館脱炭素化推進事業（市民局）

脱炭素社会の実現に向け、地域の皆さまとともに温室効果ガスの削減に取り組んでいくため、地域活動の拠点である自治会町内会館へのLED照明やエアコン等の省エネ設備導入費用の3分の2を補助します。（5年度12月補正予算に計上し、6年度に予算を繰り越して実施。）

【再配当事業】地域活動推進費補助金（市民局）

自治会町内会等が実施する防犯、防災、環境美化など公益性の高い活動やレクリエーション活動などの事業費、総会開催費などの事務費に対して補助を行います。

【再配当事業】自治会町内会の新しい運営スタイル推進事業（市民局）

【再配当事業】地域の担い手応援事業（市民局）

自治会町内会の新しい地域運営スタイルを推進するため、5年度に都筑区自主企画事業費で試行実施した事業（都筑スタイル）について、6年度は都筑区と市民局が連携して、全市に共通する自治会町内会の課題解決に取り組むための事業として継続実施します。

4年度転入者を対象にしたアンケート調査結果から、約6割がいざという時の地域や人との繋がりを必要と感じており、自治会町内会には加入にとられない緩やかな関わり方も求められていることが分かりました。そのため、自治会町内会による組織運営の見直しや多様な活動団体との連携などを通じた「新しい運営スタイル」を創出するため、自治会町内会等を対象にしたアドバイザー派遣や集合コンサルティングを行います。

また、都筑区民活動センターと連携した自治会町内会と地域活動者・団体等との交流、「新しい運営スタイル」の普及を図る支援事例の発表や情報発信を行います。

区内NPO法人を対象に地域とのつながりを考える交流会や、新しいつながりをテーマに事例紹介や参加者同士の交流から学ぶアクションセミナーを開催し、自治会町内会を応援する各種支援を実施しています。

- ・NPO交流会の開催：6月1日、参加者数15人（13団体）
- ・アクションセミナーの開催：7月7日、参加者数77人
- ・アドバイザー派遣及びイベント・事業実施サポートの実施：6月～3月（定員4地区中3地区申込受付）
- ・集合コンサルティングの実施：10月～12月（7月21日募集開始、先着20人程度）
- ・発表会の開催：3月 ・ニュースレター：年2回発行

（アクションセミナー 参加者アンケートの結果）

回答者（54人）のうち約95%が内容に対して「とてもよかった/よかった」と評価。「地域でつながるためのヒントを得ることができた」「参加者と新たな交流ができてよかった」といった声をいただきました。



《6月1日NPO交流会》



《7月7日アクションセミナー》

6 地域活動の活性化事業（区民活動センター・読書活動・青少年のボランティア） 拡充	R6 予算額	R5 予算額	増△減
	409万9千円	388万5千円	21万4千円

区民の皆様の自主的な地域活動を支援し、区全体で地域活動のすそ野の拡大や更なる活性化を図るため、区民活動センターやつづきMYプラザと連携して、子どもからシニア層まで幅広い世代を対象とした地域活動支援事業を実施します。

1 区民活動センター運営事業

(1) 活動団体情報のデジタル化と広報の強化

区民の自主的な地域活動を支援し、地域活動に関心を持つ人が必要な情報を得やすい環境をつくるため、ボランティア募集やイベントに関する情報をスマートフォン等で簡単に取得できる仕組みを検討します。（市民局、デジタル統括本部及び青葉区と連携）

また、区内で活動している市民活動の紹介や、区民活動センターに登録しているボランティア人材バンクの情報の充実を図るとともに、都筑区民活動センター公式LINEやX、Facebookなどを活用し、SNSによる情報発信の強化を行います。



《都筑区民活動センター公式LINE》

(2) 講座・イベント・成果報告会の企画・運営

地域活動のきっかけづくりや地域で活動する団体同士のつながりづくりを目的に、年間を通じて様々な講座やイベント、交流会を実施します。実施にあたり、区民利用施設や市民団体及び地域活動に関心を持つ区民と協働で企画運営に取り組むことで、地域と連携した地域活動の促進を図ります。

さらに、市民活動団体やボランティアを自治会町内会につなげるため、情報提供や相談対応など自治会町内会支援の強化を図っていきます。

- ・地域活動のきっかけづくりや情報交換の場「交流サロン」（毎月開催）
- ・地域活動の担い手づくり講座「大人の部活動」（7月～9月）
- ・地域活動を情報発信する市民ライター養成講座（5月～9月通年）
- ・地域活動団体のスキルアップ講座「縁（えん）ジンミーティング」（8月、1月）
- ・地域活動の活動発表、交流会「つづき人（びと）交流フェスタ」（2月）



《 5 年度つづき人交流フェスタの様子 》

(3) 自治会町内会支援の強化

市民活動団体やボランティア人材を自治会町内会につなげるため、情報提供や相談対応など自治会町内会支援の強化を図っていきます。

また、「自治会町内会の新しい運営スタイル推進事業」と連携し、相互の広報媒体による発信力強化や、地域で活動しているボランティアの紹介などを通じて、自治会町内会が多様な活動団体と連携できる場づくりを支援します。



《 ボランティア人材を紹介している様子 》

2 子どものボランティア体験事業

夏休み期間を利用して、中・高校生がボランティア活動を体験し、日ごろ関わる機会が少ない年代や地域の方々と交流し、体験を通じて学ぶ「はあと de ボランティア～中高生のための夏休みボランティア体験～」及び小学校5・6年生向けの「はあと de ボランティアプレコース」を実施します。

つづきMYプラザや青少年指導員が中心となり、施設や団体と連携して子どもと地域をつなぐことによって、地域で活動する大人にとっても、子どもと関わり新たな気づきの場となることを目指します。

また、同事業の発展形として、中・高校生が1年を通して活動し来夏の体験事業を企画する「STEP UP プログラム」(局予算事業)を支援します。

- ・オリエンテーション：7月19日～23日、全7回、つづきMYプラザ、区役所等
- ・ボランティア体験：7月25日～8月23日
中高生コース…91プログラム（参加者275人）
小学5・6年生プレコース…51プログラム（参加者96人）
- ・振り返り・修了証授与：8月24日、都筑区役所



《オリエンテーション》



《竹林整備》



《センター南駅周辺の清掃》



《修了証授与》

3 読書活動推進事業

区民の読書活動を推進するために、都筑図書館と連携し、区内の各施設で読書をテーマにした、おはなし会、講演会及び展示会などを実施します。

- ・おでかけ図書館：図書館と連携して区内施設に出向いて行う読書活動（通年）
- ・つづきブックフェスタ：市民団体、図書館と協働で実施する読書イベント（11月）
- ・読書懇談会（2月）



《おでかけ図書館（ららぽーと横浜の様子）》



《つづきブックフェスタ》

【局事業】 地域支援のデジタル化事業（市民局）

デジタル技術を活用した地域支援の仕組みづくりとして、自治会町内会やNPO法人などの情報の見える化に取り組み、地域活動への参加促進、団体同士の連携強化を図ります。

【再配当事業】 各区市民活動支援センター機能強化事業（市民局）

区民活動センターのコーディネート機能強化の取組として、区民利用施設や区民活動センターのファシリテーション力強化を目的とした講座等を行います。

【再配当・局事業】 青少年の地域活動拠点づくり事業（こども青少年局）

中・高校生世代を中心とした青少年が安心して気軽に集い、仲間や異世代との交流、社会参加プログラム等の体験活動を行う「青少年の地域活動拠点」を実施し、青少年の社会参画に向かう力を育みます。

【再配当事業】 横浜市民の読書活動推進事業（教育委員会事務局）

区の活動目標に基づき、地域全体で読書活動を推進するため市民への普及啓発等の事業に取り組みます。

【局事業】 地域図書館・図書取次業務委託事業（教育委員会事務局）

「ららぽーと横浜」施設内の新たな図書取次所の設置に向けた準備を進めます。

7 都筑区地域福祉保健計画 「つづき あい」推進事業	R6 予算額	R5 予算額	増△減
	68万6千円	203万3千円	△134万7千円

第4期都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」（計画期間：3年度～7年度）に基づき、福祉保健の取組への住民参加を促進し、地域活動団体や社会福祉施設等と行政が協働して、地域づくり、支えあいの仕組みづくりを進めます。

1 地区別計画推進会議等への支援

(1) 第4期計画推進に向けて、地域住民による課題共有・解決の体制を促進するため、地区別計画推進会議等の取組を支援します。

地域懇談会開催地区数：2地区（8月末時点）



《地域懇談会の様子》

(2) 地域での取組に対して、「つづき あい基金」を通じて支援を行います。

申請受付期間 前期：6月3日～7月19日、後期：10月10日～11月22日

2 地域福祉保健推進に携わる職員を対象とした研修

庁内及び関係機関の連携強化を図りつつ地域支援を行えるよう、地域支援に関わる区や関係機関の職員を対象とした研修を実施しました。（職員向け計画説明会：6月26日）

3 都筑区地域福祉保健計画推進委員会等の運営

計画の進捗状況や課題等について報告、意見交換し、今後の計画推進や次期計画検討の参考とするため、学識経験者や各種団体の代表者等からなる都筑区地域福祉保健計画推進委員会を開催します。（12月）

4 地域福祉保健の啓発・発信

多くの区民が集まるイベントや地域のサロン等への参加や、広報よこはまやSNSを活用した発信などを通じて、若年層や子育て世代を含めた幅広い層に地域福祉保健の啓発を行います。また、テーマ型の活動を含めた地域の様々な活動の状況を把握し、地域福祉保健の課題を共有しながら、解決に向けた取組を進めます。

- ・区民まつりにおける啓発：11月3日予定
- ・広報よこはま都筑区版への記事掲載：3月号予定
- ・パネル展における啓発：1月上旬予定



《地域活動の取組例：移動販売(茅ヶ崎南 MGCRS 地区・都田地区)》

【再配当事業】地域福祉保健計画推進事業（健康福祉局）

誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりを目指し、住民、事業者、行政、社会福祉協議会、地域ケアプラザ等が福祉保健などの地域の課題解決に協働して取り組み、身近な地域の支え合いの仕組みづくりを進めることを目的として、地域福祉保健計画を推進します。

8 障害者交流啓発事業 新規	R6 予算額	R5 予算額	増△減
		106万7千円	107万7千円

障害があっても住み慣れた地域で生活していけるよう、障害者と地域住民との交流や障害者の社会参加を支援する各種事業を実施します。

1 福祉農園事業

障害児・者の方が参加する芋の収穫体験を実施します。(10月)

12月の障害者週間にあわせて、区民ホールで障害当事者や障害者福祉事業所等の関係機関と協働により、「障害者と地域の共生フェスタ」を開催します。障害福祉事業所のパネル展示に加え、区制30周年を記念し、書家 金澤翔子さんから寄贈された書画「都筑愛」の展示や、書をモチーフとしたステッカーの配布を行う予定です。(12月3日～7日)



《芋の収穫体験の様子》



《障害者と地域の共生フェスタの様子》

2 障害者地域啓発事業

(1) 区民まつり福祉バザー (11月3日)

地域住民が参加する区民まつりにおいて、障害者団体が出店し、障害者と地域住民の交流の機会とします。

(2) 障害者グループホームの地域防災拠点防災訓練への参加支援 (9月～2月)

障害者が地域防災拠点の防災訓練に参加し、地域住民とお互いに顔の見える関係を築くとともに、障害者自身が拠点の役割や機能を理解していただく機会とします。



《区民まつり 障害者団体自主製品販売》



《都筑区自立支援協議会ホームページでの参加推奨》

3 障害者施設支援事業

障害者の社会参加につなげるため、区民ホール、駅構内等において障害者施設の自主製品の販売活動を支援します。また、農福連携*の取組を行う区内障害福祉事業所に対して農作業に必要となる物品購入費（軍手や長靴等）の補助を行います。



《生垣整備のための枝切作業》



《じゃがいもの収穫作業》



《えだまめの収穫作業》

*農福連携：障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組です。農福連携に取り組むことで、障害者等の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながる可能性もあります。

(出典：農林水産省ホームページより)

9 まちづくり総合調整事業	R6 予算額	R5 予算額	増△減
	347万5千円	661万3千円	△313万8千円

まちづくりに関する区民の皆様の声を聴き、区内企業・教育機関等との連携、地域の実情に応じたきめ細やかなまちづくりの普及・啓発、区民主体のまちづくりの支援等により、地域の課題解決等を図るための検討や取組を進めます。

また、まちの魅力を活かしたにぎわいの創出などのまちづくりに取り組みます。

1 まちづくり・企画調整

(1) まちづくり調整

区内における建築協定の更新（港北ニュータウンつづき野（荏田東一丁目内）：6月）やまちづくり活動団体への支援などに取り組みます。また、都市計画マスタープラン都筑区プランの改定に向けて、現行プランの検証等を行います。

あゆみが丘市有地の利活用や横浜国際プール再整備、地域交通のあり方などについても地域や事業を所管する局等と連携しながら進めていきます。

(2) 区内大学との連携

東京都市大学については、地域課題に関する意見交換会（地域連携協力会議）等を行いました。（5月27日）

令和5年4月に開校したビューティ&ウェルネス専門職大学については、区内で外出しているときに帰宅困難となった場合の備えとして、新たに帰宅困難者一時滞在施設の指定を行う協定を締結しました。（7月18日）引き続き、今後の連携に向けた検討を行います。



《東京都市大学地域連携協力会議の様子》



《ビューティ&ウェルネス専門職大学
(帰宅困難者一時滞在施設)》

(3) 区内企業との連携

区内企業による公立小・中学校出前講座（つづき博士倶楽部*）を行います。

*つづき博士倶楽部とは

都筑区に立地する企業・事業所がその専門分野を生かした講座を都筑区内の公立小中学校へ出向いて講義するもの



《学校での講座の様子》

(4) 区内商業施設との連携

区制 30 周年という節目に区としてさらなる発展を目指し、子育て支援をはじめとする幅広い分野で協力・連携し、地域の課題の解決やより一層の活性化、区民サービスの向上を図るため、新たに区内の大型商業施設「ノースポート・モール」を運営する東急不動産株式会社、東急不動産 SC マネジメント株式会社と連携協定を締結しました。(8月29日)



《締結式の様子》

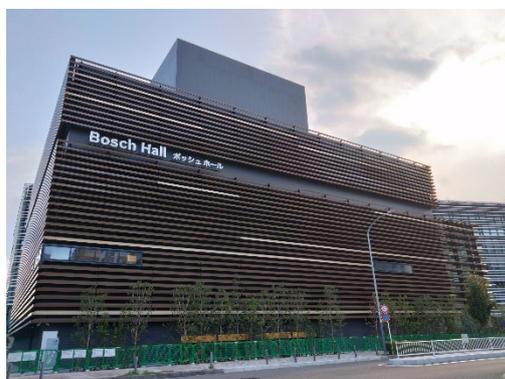


《締結式後の懇談》

2 区民文化センター関連事業

7年3月開館予定の都筑区民文化センターの整備(8月しゅん工)とともに、隣接する鉄道高架下用地の利活用を所管局等と連携しながら進めます。

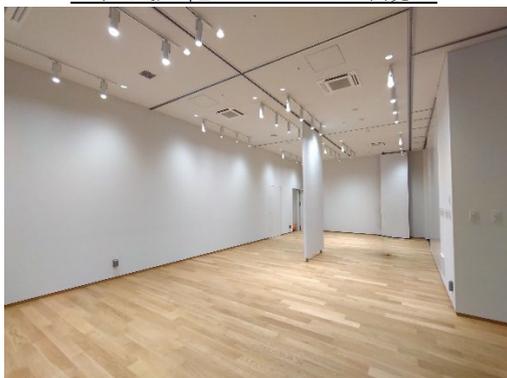
また、区民文化センターニュースの発行(9月)により、整備の進捗状況をお知らせするとともに、開館に向けた広報を通して機運の醸成を図ります。



《区民文化センター 外観》



《ホール》



《ギャラリー》



《エントランス》

【再配当事業】都筑区民文化センター整備事業（にぎわいスポーツ文化局）

市地域に根差した個性ある文化の創造に寄与するための、文化芸術活動の拠点となる区民文化センターの開館に向けた広報や官民及び地域が一体となって行うオープニングイベント等を行っていきます。

10 危機管理対策事業	R6 予算額	R5 予算額	増△減
	1,077 万 6 千円	816 万 1 千円	261 万 5 千円

大雨や台風による河川の氾濫を想定した情報受伝達、地震により負傷者が多数発生したことを想定した災害医療対策訓練などの各種訓練を通じて、関係機関・団体との連携を図ります。

また、区災害対策本部の運営に必要となる資器材の維持管理や、災害時に迅速かつ的確な情報収集・発信をするための運用を整備します。

1 関係機関と連携した災害対応力の向上

(1) 「災害対策連絡協議会」や「帰宅困難者対策部会」を開催し、警察署等の関係機関・団体と情報共有や意見交換を行います。

- ・災害対策連絡協議会（5月10日）

(2) 「災害医療連絡会議」を開催し、区医師会等の関係機関・団体と災害医療に関する情報共有や意見交換を行います。

(3) 区医師会等と実施する災害医療対策訓練及び交通事業者や帰宅困難者一時滞在施設等と実施する帰宅困難者対策訓練等を通じて、関係機関・団体との連携強化を図ります。

- ・「診療中」の黄旗掲出訓練（9月2日、1月17日、3月11日）
- ・仮設救護所運営訓練（1月～2月予定）

(4) 区災害対策本部の運営のため、通信機能の確保や資器材の補充を行います。また、区災害対策本部訓練を実施することで、区職員の災害対応能力の向上を図ります。



《帰宅困難者対策訓練(センター北駅)》



《黄旗掲出訓練》

2 災害時における情報発信

(1) 災害発生時や災害発生が見込まれる際、区独自に設置の防災用スピーカーを活用し、河川沿いの住民に情報発信する他、緊急時情報伝達システムを活用し、区内の自治会・町内会長等へ避難情報等を一齐に電話で受伝達するシステムを引き続き運用します。

- ・緊急時情報伝達システム（6月7日）
- ・防災用スピーカー情報伝達訓練（7月13日）

(2) 勝田会館に設置した防災用スピーカーについては、支柱の老朽化に伴い撤去し、勝田訓練場に1基整備します。（～12月予定）



《防災用スピーカー活用の情報伝達》



《防災用スピーカー》

11 災害にそなえる自助・共助の推進事業	R6 予算額	R5 予算額	増△減
	360 万 1 千円	581 万 5 千円	△221 万 4 千円

広報よこはまや防災・生活マップ等を活用した啓発活動に加えて、地域防災拠点運営委員向けの研修会、防災・減災講演会の開催、及び災害時要援護者支援事業(つづき そなえ)による地域の取組支援等を実施することで、自助・共助の取組を推進し、地域防災力の向上を図ります。

1 地域防災拠点の運営支援

地域防災拠点運営委員を対象として、能登半島地震における被災地への派遣者から現地での課題について情報共有を行うことも含めた地域防災拠点の開設・運営などに関する研修会(3回)(6月、7月、10月)を開催するとともに、地域防災拠点における訓練を支援します。また、男女共同参画の視点から避難所生活における女性のプライバシーの確保を図るため、着替えや授乳用の簡易テント等を配置します。

また、南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が発表された際には、各地域防災拠点の運営委員長宛に開設運営に関する留意事項を速やかに連絡するとともに、各地域防災拠点の備蓄庫が即座に使用できる状態にあるか緊急点検を行いました。

- ・都筑区地域防災拠点運営委員会連絡協議会(5月27日)
- ・地域防災拠点運営委員研修会
第1回 6月22日(出席者21人)
第2回 7月6日(出席者23人)



《運営委員研修会の様子》



《簡易テントの一例》

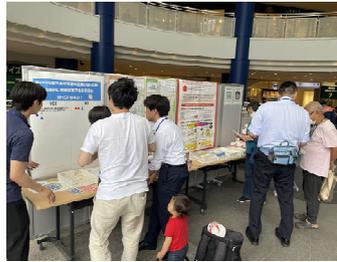
2 自治会町内会等向け出前講座、防災・減災講演会の開催

自治会町内会・小中学校等を対象とした出前講座や区民向け防災・減災講演会(7月3日実施)を開催したほか、商業施設での啓発イベント(5月6日実施)や地域情報誌を通じて、大規模地震や風水害への備えなどの知識の向上や防災・減災に関する意識啓発を図ります。

今年度の防災・減災講演会では、能登半島地震でも課題となった災害時のトイレ問題について、特定非営利活動法人日本トイレ研究所代表理事の加藤篤氏より7月3日に都筑公会堂にて講演いただきました。講演へ参加された方は260人と大変多くの方が参加されました。

※参加者アンケートの結果：

「とてもよかった」、「よかった」と回答された方が100%となり大変好評でした。



《地域情報誌記事》

《商業施設でのイベント》

《都筑区防災・減災講演会》

3 防災マップの多言語化

災害に対する避難行動や事前の備えについて、外国人の方々の知識・理解の促進を図るため、都筑区防災マップの多言語化を進めます。令和5年度に引き続き、ベトナム語とやさしい日本語への翻訳を行います。

4 災害時要援護者支援事業（つづき そなえ事業）

災害時要援護者支援に関する地域の取組が進むよう、希望する地域に行政が保有する災害時要援護者名簿の提供を行うほか、補助金の交付、取組の必要性の啓発や事例の紹介など、各地域の実情に合わせた支援を行います。

・補助金の申請地区：13 地区

なお、在宅サービスを利用している高齢者等の安否情報が、災害時に関係者間で速やかに共有できるよう、医師会や介護関係者とともに検討を進めています。



《地域での登録ボランティア顔合わせ会》

《地域での安否確認訓練の様子》

※写真は葛が谷地域ケアプラザ広報誌から抜粋

5 災害時の健康維持啓発事業

健康づくりの観点から災害の備えを促すため作成した「食の備蓄」「口腔ケア」「衛生対策」に関する冊子「災害時にも役立つ BOOK」の活用を地域防災関係者に促すとともに、保健活動推進員や食生活等改善推進員等と連携して啓発を行います。

・啓発：5 回実施、参加者 93 人

・健口フェスティバル（6 月 16 日）

：参加者 600 人程度（延べ数）

※災害時の口腔ケアブースでの参加者アンケートの結果：

災害時の備えとして歯ブラシや歯みがきシートを

追加しようと思ったと回答した割合 75%

（すでに入れていると回答した割合 25%）



《健口フェスティバルでの口腔ケア啓発》

6 災害時のペット対策事業

災害時のペット避難について、飼い主一人ひとりが適した方法を自ら考えられるよう、日頃からの備えに関する動画を配信するとともに、ペット用災害時持ち出しグッズ等の展示を行うなど、あらゆる機会をとらえて啓発を進めます。動画はホームページ、X、動物病院やペットショップで周知します。

また、地域防災拠点においてペット同行避難の受入れ体制が進むよう、ペット避難所開設キット（受付物品等）を活用した各拠点の取組を支援します。

- ・「我が家のペット防災展」：9月20日～26日
- ・日頃からの備えに関する動画の配信：7月から



《ペット避難所開設キット》



《地域防災拠点避難訓練でのペット一時飼育場所(避難所)設営の一例》



《ペット避難所開設キットの内容
(手順書、様式、文具、シート他)》



おやつやおもちゃを使いながら、ケージ等の中が怖くない場所だと教えましょう。



《日頃からの備えに関する動画》

【局事業】地域防災拠点の充実・強化（総務局）

震災直後における物資確保等、市民の安全確保にかかわる食料水等を確保するとともに、授乳しやすいよう全ての地域防災拠点（459か所）に新たに液体ミルクの備蓄を開始します。備蓄の開始は令和6年8月から9月の備蓄品更新時期であり、各拠点に24本を配備する予定です。

【局事業】地域の防災担い手育成事業（総務局）

町の防災組織のメンバーや地域防災拠点運営委員を対象とした研修を通じて、地域防災の担い手を育成します。「よこはま防災研修」では、オンライン形式で気軽に研修に参加できるようウェブサイトを機能拡充するとともに、地域によって異なる災害リスクに応じた専門のアドバイザーを派遣するなど、地域における担い手の裾野を広げます。

【再配当事業】地域の防災担い手育成事業（総務局）

地域の実状に合わせた研修プログラムや講演会の実施、啓発事業等により、地域防災の担い手の育成や、町の防災組織を中心とした自助・共助の取組の推進を図ることで、「災害に強い人・地域」づくりを支援します。

【再配当事業】災害時要援護者支援事業（健康福祉局）

発災時、自力で避難することが難しい高齢者や障害者等の避難を地域が支援できるよう、日頃から顔の見える関係作り等を進めていただくため、災害時要援護者名簿の作成や、支援方法等に関する周知・啓発を行います。

12 安全・安心なまちづくり事業	R6 予算額	R5 予算額	増△減
	691 万 4 千円	958 万 3 千円	△266 万 9 千円

安全で「安心」を実感できる「ふるさと都筑」を実現するため、交通安全、スクールゾーン協議会支援、放置自転車対策、防犯パトロール支援を行います。

1 交通安全運動

都筑区交通安全対策協議会を中心に、都筑警察署等関係機関・団体と連携しながら交通安全運動の街頭キャンペーンや交通安全教室を実施します。さらに、日々の交通安全運動に貢献された皆様を顕彰します。

また、子どもたちの安全・安心のため、学校や警察と連携し、スクールゾーン標示の整備や交通安全啓発等を実施し、各小学校のスクールゾーン・防犯対策協議会の支援を行います。

- ・交通安全運動：年間11回実施
新たに緑道（神無公園～徳生公園）での自転車マナーアップ啓発活動実施（5月）
- ・はまっ子交通あんぜん教室：9校（5月～11月）
- ・スクールゾーン・防犯対策協議会の開催
24校（区内22校＋区外2校）で6月～11月に順次開催
- ・広報よこはま（7月号区版）にて自転車マナーアップ啓発を含む交通安全の特集記事を掲載



《はまっ子交通あんぜん教室》



《スクールゾーン路面標示》



《緑道での自転車マナーアップ啓発活動》



《広報よこはま（7月号区版）》

2 放置自転車対策事業

駅周辺で啓発チラシ等を配布し、放置自転車防止等呼びかける放置自転車クリーンキャンペーンを行います（10月）。



《放置自転車クリーンキャンペーン》

3 地域防犯活動推進事業

地域防犯活動を行う自治会町内会及び地域の自主防犯のための青色回転灯パトロール隊に対し助成金を交付するとともに、都筑警察署や都筑防犯協会と連携し、防犯活動のための研修会（10月13日（日）都筑警察署4階講堂）を行うなど、活動を支援します。

また、都筑防犯情報メーリングリストの発信（原則週1回、登録者数約2,500人）を行います。



《青色回転灯パトロール車出陣式の様子》



《各地域の青色回転灯パトロール車》



《防犯メーリングリスト登録サイト》

【再配当事業】地域防犯活動支援事業（市民局）

防犯に関する物品などを自治会町内会等に配付することにより、地域での防犯活動を支援します。

【局事業への変更】放置自転車等移動、保管・返還業務（道路局）

区内各駅の自転車等放置禁止区域において適切な自転車利用を行うよう監視指導を行う監視員を配置します（各区での委託契約から道路局一括契約に変更）。

13 広報・広聴事業	R6 予算額	R5 予算額	増△減
	133万8千円	172万2千円	△38万4千円

広報よこはまや区ホームページ、SNS を活用し、区政情報や区の魅力・見どころなどを広く発信することで、区民生活の利便性向上やにぎわいの創出につなげます。

また、広聴事業により、多様化する区民ニーズや地域の課題を把握し、円滑な区政運営を図ります。

1 情報発信事業

(1) インターネットを活用した広報

区ホームページや SNS (X、LINE) を活用し、区政情報や各種イベント情報の発信、広報よこはま都筑区版のオープンデータの提供などを行います。

(2) PR ボックスを活用した広報

毎月 1 日、都筑区内全駅にある PR ボックスの見開き掲示板* に広報紙の最新号を掲示するほか、毎月 15 日に広報印刷物の補充を行い、イベントやお知らせ等を周知します。

特に利用者の多いセンター南駅・センター北駅の PR ボックスは、毎月 22 日に追加補充を行います。

* 広報よこはま市版と区版の表紙を並べて貼りだします



《センター南駅設置の PR ボックス》

(3) 主要事業の広報

広報よこはま都筑区版 5 月号で区の主要事業の広報を行いました。

また、希望のあった連合自治会にて、主要事業説明会を実施しました（5月6日～6月22日、10連合で実施）。いただいたご意見は、所管部署に供覧又は回答依頼をしました。

(4) 都筑の魅力発信

SNS や区ホームページ、デジタルサイネージを活用して写真や動画で都筑区の魅力を広く発信します。

都筑区季節の魅力 PR 動画「めぐる季節に出会える都筑」を 4 月 16 日に YouTube 等で公表しました。



《南山田の虫送り (PR 動画より)》



《庁舎内サイネージでの PR 動画放映》

【動画の PR 媒体】

YouTube、PRTIMES、区ホームページ、区庁舎内サイネージ、都筑区子育て支援センター Popola、ノースポート・モール内サイネージ



《動画掲載場所》

2 広聴事業

各種広聴制度を活用し、区民の方や区内で活動する団体等の方から様々な意見を伺うことで、地域における課題やニーズの把握に努めます。

14 スムーズ区役所事業	R6 予算額	R5 予算額	増△減
	1,581 万 1 千円	1,268 万 1 千円	313 万円

庁舎内のデジタル環境整備や、来庁者へのサービスを向上することにより、業務の効率化と区民の皆様が利用しやすいスムーズな区役所を実現します。

1 デジタル環境推進事業

横浜DX戦略を踏まえ、区民サービス向上や業務効率化につながる、デジタル環境を整備します。3～5階エリアについて、区民の方が利用できるインターネット接続用無線 LAN 環境（公衆無線 Wi-Fi）を整備し（7月に整備を行い、全フロア整備済み）、一層のペーパーレス環境の整備のため、会議室及び執務室の ICT 環境の整備を図ります（2月）。また、会計年度任用職員の勤怠管理システムの実証実験、戸籍課での申請書自動入力の実証実験に引き続き取り組みます。



《会議室での会議の様子》



《執務室内ミーティングの様子》

2 区庁舎環境改善

区民の皆様が快適に利用できるよう、区庁舎の環境改善や整備を行います。

3 税理士による確定申告受付事業

確定申告の期間中（2月17日～3月17日）のうち10日間、区民の皆様身近な区役所において、専門知識を持つ税理士の協力を得て確定申告（医療費控除の還付申告）に係る申告書の作成支援・受付を行います。

4 来庁者サービスアップ事業

来庁者が利用しやすい窓口になるよう、子ども家庭支援課に窓口案内員を配置します。

（配置時間：8時45分～17時）

また、お子さま連れの来庁者が待ち時間にお子様と過ごせる場所を提供します。



5 人権啓発講演会

人権意識の向上を目的として、区民の皆様及び職員を対象とした人権啓発講演会を公会堂で実施します（12月）。

【再配当事業】横浜DX戦略（デジタル統括本部）

横浜DX戦略に掲げる「書かない・待たない・行かない・そしてつながる」をコンセプトとした「デジタル区役所」の実現に向けて、西区と港南区を中心に様々な実証実験が行われてきました。都筑区では、事務効率化のため、会計年度任用職員の出退勤管理システムの実証実験を行っています。

《会計年度出退勤管理の様子》



【再配当事業】区庁舎等改善事業（市民局）

都筑土木事務所における女性用シャワー室等の整備に向けた実施設計を行います。

施策2 活力とにぎわい、魅力あふれるまち

15 横浜ビー・コルセアーズを活かした ホームタウン活動推進事業	R6 予算額	R5 予算額	増△減
	320 万円	320 万円	0 円

平成29年3月に横浜ビー・コルセアーズ、都筑区連合町内会自治会、区役所の三者で締結した「ホームタウン活動の協力に関する基本協定」に基づき、区をあげたチームの応援にこれまで注力してきました。また、チームとしても地域向けバスケットボール教室の開催や障害者施設での交流会などに加え、地域の催事・イベントへの参加やパブリックビューイングの開催、B-ROSE（チアリーダーズチーム）のユースメンバーの育成など、地域貢献活動に取り組んでいます。今後もチームとの連携を更に深め、誰もがスポーツに親しむ機会の創出や街の賑わいづくりを図ります。

1 ダイバーシティスポーツ関連

令和5年度は、障害の有無や日本語の理解にかかわらず誰もが楽しめるスポーツイベントを2月に初めて開催しました。6年度は実行委員会を対象に、ダイバーシティ及びインクルージョンの考え方の理解を深めるため、講座を開催します。

さらに、講座で得られた学びを今後の各種イベントの際に活用できるようなコンテンツづくりなどを実行委員会とともに検討していきます。



《5年度ダイバーシティスポーツイベントの様子》

2 都筑区グラウンドゴルフ大会

横浜ビー・コルセアーズ協賛のもと、グラウンドゴルフ大会を開催し、シニア層へのチームの認知度向上及びプロスポーツチームとの協働による地域の一体感醸成を図ります。

（6月2日実施予定でしたが、雨天のため中止となり、12月14日に順延開催を予定）



《参考：5年度の大会の様子》

3 ホームタウン広報

「都筑区応援 Day」の実施や、区庁舎を始めセンター北駅・センター南駅付近や北山田駅、区民利用施設での積極的な広報など、地域に根差したチーム作りの支援を行うことで街の一体感の創出と地域の活性化を図ります。都筑区全体で横浜ビー・コルセアーズのホームタウン活動を推進する機運を醸成し、街の一体感の創出と地域の活性化を図ります。



《応援 Day の様子》



《区庁舎装飾》

4 須藤昂矢選手の一日都筑区長就任による地域貢献活動

8月27日（火）、都筑区制30周年を盛り上げるための活動の一環として、横浜ビー・コルセアーズ背番号30番の須藤昂矢選手が「一日区長」に就任しました。委嘱状交付式や庁舎内視察を行った後、すきっぷ広場でセンター南駅前アーケード装飾デザイン発表セレモニーや須藤区長とのじゃんけん大会を開催しました。



《須藤選手の一日区長就任》



《じゃんけん大会の様子》

16 文化とスポーツであふれるまちづくり 推進事業	R6 予算額	R5 予算額	増△減
	172 万 2 千円	164 万 4 千円	7 万 8 千円

都筑区を拠点とした文化、スポーツの活動を支援することで、広く区民が文化・スポーツに親しむ機会を提供します。

1 つづきユースフェスティバル

地域で活動する青少年が主役となり吹奏楽やダンス等の文化活動を区民に向けて披露する第2回「つづきユースフェスティバル」を開催することで、文化活動発表の場の提供による青少年の自己表現機会の創出を図ります。(令和4年度まで実施してきた「つづきウォーク&フェスタ」の内容を見直し、5年度よりフェスタに特化した新しいイベントとして開催)

実施日：11月23日 都筑公会堂



《区内中学校吹奏楽部の演奏と県立高校ダンス部のパフォーマンス》

2 都筑区民文化祭事業

区民及び区内活動団体が自主的に運営する「都筑区民文化祭」の開催を支援し、区民が広く文化に親しむ機会を創出します。

第29回都筑区民文化祭：1月18日～2月2日

- ・オープニングセレモニー：1月18日、都筑区民ホール
- ・展示部門：1月18日～2月2日、都筑区民ホール

※「舞台部門」は公会堂が工事休館のため中止。

(工事期間は7年1月7日～12月28日を予定)



《オープニングセレモニーと花・写真の展示》

3 都筑スポーツ・文化賞事業

スポーツ・文化の分野においてめざましい活躍、顕著な功績のあった都筑区にゆかりのある方々を表彰し、さらなる活躍を期待するとともに、スポーツ・文化活動への関心を高めます。

実施日：1月6日 都筑スポーツ・文化賞表彰式



《表彰式の様子（5年度）》

4 スポーツ協会活動補助事業

各種スポーツ大会や講習会を開催する都筑区スポーツ協会に対し補助を行い、スポーツ、レクリエーション活動を振興し、区民の健康増進と相互の親睦を図ります。

17 都筑区民まつり支援・地域の賑わいづくり事業	R6 予算額	R5 予算額	増△減
	454 万円	484 万円	△30 万円

笑顔にあふれ活気ある都筑区民まつりの開催を支援することで、地域の賑わいづくりとふるさと意識の向上を図ります。また、地域コミュニティの重要な担い手である商店街（区商連加盟店舗等）への集客支援を行い、地域の活性化及び街全体の賑わい創出を図ります。

1 都筑区民まつり支援事業

区民の皆様へ地域に対する愛着やふるさと意識を醸成していただけるよう、都筑区ふるさとづくり委員会とともに、「第30回都筑区民まつり」を11月3日（祝・日）に都筑区総合庁舎及びセンター南駅周辺で開催します。区制30周年記念ブースの設置による広報、ガーランドやちらしの装飾によるPRなどを行い、区民の皆様と30周年をお祝いします。



《第29回都筑区民まつり》

2 商店街の魅力発信事業

都筑区商店街連合会とともに、商店街の魅力を効果的に発信する方法について検討しながら事業を進めます。5年度に立ち上げたインスタグラムを活用した集客向上につながる仕組みについて、SNSやチラシ、広報よこはまの活用、プロスポーツチーム等と連携した取組により広くPRすることで、商店街を核とした賑わいづくりへの支援を行います。



《商店街魅力発信事業「Let's Go 商店街」》

《4商店街を巡るバスツアー》

18 在住外国人支援・国際交流事業 拡充	R6 予算額	R5 予算額	増△減
	487 万 9 千円	467 万 9 千円	20 万円

国籍や文化的背景などにかかわらず、誰もが安全・安心に暮らすことができるまちづくりを推進するため、「都筑多文化・青少年交流プラザ（つづきMYプラザ）」と連携して、在住外国人に寄り添った日本語学習・生活支援や、国際交流を通じた多文化理解の促進を図ります。外国につながる子どもたちが地域に愛着を持ち、活躍できるよう支援します。

1 在住外国人支援事業・国際交流事業

多言語による情報提供及び相談対応を実施するとともに、増加する在住外国人を支えるため、ボランティアを育成します。言語の壁が原因で学習に課題を抱える子どもたちに対し、学校と連携した学習支援及び相談の居場所を提供します。子育て支援センターや NPO と連携し、子育て世帯への切れ目のない支援を実施します。

令和7年の第9回アフリカ開発会議の横浜開催が決定し、国際交流による次世代育成の期待が高まっています。5年度に「都筑・ボツワナ交流児童画展」10周年記念として実施した都筑・ボツワナ交流アニバーサリー事業を機に、ボツワナ共和国との交流実績を今後発展的に継続・拡充し、より幅広い年代の子どもたちを対象に多文化理解及びグローバル教育の推進を図ります。

- ・外国につながる子どものための教育相談、日本語教室、学習補修教室（通年）
- ・日本語ボランティア連絡会の実施（月1回）、養成講座の実施
- ・茅ヶ崎小学校3年生児童に向けたボツワナ国際理解教室（6月28日）
- ・都筑・ボツワナ交流児童画展（2月：区民ホール、3月：JICA横浜）
- ・DE&I[※] FESTIVALの開催（10月6日）

※ DE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）とは、Diversity（多様性）、Equity（公平性）、Inclusion（包括性）の3つを合わせた言葉です。国籍や障害の有無にかかわらず、多様な人が、公平な機会のもと、違いに尊重しあい、力を発揮できる環境を実現するという概念です。



《学習支援の様子》



《駐日ボツワナ大使館による国際理解教室の様子》





《DE&I フェスティバルの様子》

2 都筑・ドイツ交流イベント事業

在住ドイツ人の多い都筑区で日独の相互理解・交流の促進及び多文化共生社会の推進を目的に、地元商業振興会や自治会町内会、東京横浜独逸学園、ドイツ企業等と連携し、センター北駅前の芝生広場を会場に「ドイツクリスマスマーケット in 都筑 2024」を開催します。(12月7日、8日)



《ドイツクリスマスマーケット in 都筑 2023》

【再配当事業】外国人材受入・共生推進事業（国際局）

地域の外国人支援及び国際交流の拠点として、多言語での情報提供や相談対応、日本語教室、日本人と外国人の交流事業などを実施する国際交流ラウンジを運営します。

19 メイドインつづき推進事業	R6 予算額	R5 予算額	増△減
	361 万円	364 万円	△3 万円

都筑区の製造業の持つ高度なものづくり技術や独創的な製品、区内でとれた新鮮な都筑野菜などの「メイドインつづき」をPRすることにより、販路開拓や地産地消につながる支援を実施します。

1 メイドインつづきPRイベント

区制30周年を記念して、「環境にやさしいまち推進事業」と連携し、「メイドインつづき（中小製造業支援、地産地消の推進）」のPR及びSDGsの啓発を目的とした親子向けのイベント「eco チャレ 2024～エコな行動にチャレンジしてみよう～」を都筑区役所（1階区民ホール、6階大会議室、消防署中庭）で新たに開催します。（11月16日）

2 中小製造業支援

(1) 販路開拓・企業間連携支援

県下最大級の工業技術見本市「テクニカルショウヨコハマ2025」（2月5日～7日）に「メイドインつづき」ブースを出展し、参加企業の技術・製品をPRするとともに、企業連携により制作したユニークな製品の数々を展示します。



《テクニカルショウヨコハマ2024の様子》

また、販路開拓や人材確保等の観点から、参加企業の販促・広報用ツールを作成し、展示会や各種催事で活用します。

(2) 小学生向け廃材配付イベント

参加企業の工場から出た廃材を集め、区役所1階区民ホールにて小学生向けに配付しました。（8月7日）



《廃材配付の様子》

3 地産地消の推進

市内有数の農地面積、農家戸数を誇る都筑区ならではの特徴を生かし、「新鮮な野菜が手に入りやすいまち」を目指すことにより、区民一人ひとりのウェルビーイングにつなげます。

令和6年度は、都筑野菜朝市（概ね月4回）の開催のほか、港北TOKYU S.C.及びJA横浜と連携した規格外野菜の販売など、SDGsに寄与するマルシェイベントの開催の支援などに引き続き取り組みます。

（港北TOKYU S.C.及びJA横浜と連携したマルシェイベント：6月29日、11月23日）



《マルシェイベント当日の様子》



【再配当事業】ものづくり魅力発信事業（経済局）

中小製造業の販路開拓とものづくりの魅力発信を推進するため、テクニカルショウ
ヨコハマにおけるメイドインつづきのPRや区の垣根を越えた企業間連携などを支援
します。

【再配当事業】身近に農を感じる地産地消の推進事業（みどり環境局）

農産物直売所の整備等を支援するとともに、市内で生産される苗木や花苗の配布、
地産地消に関わる情報の発信など、地産地消を身近に感じる取組を推進します。

施策3 花と緑にあふれ、豊かな環境を育むまち

20 環境にやさしいまち推進事業	R6 予算額	R5 予算額	増△減
	117 万円	98 万 4 千円	18 万 6 千円

地球温暖化を始めとする環境問題への対策について区民へのPRを進めるとともに、地球環境に優しい生活の普及啓発を推進します。

また、きれいな街づくりのため、地域清掃活動の支援、不法投棄防止対応、3Rの普及啓発、「ヨコハマ プラ5.3計画」の推進などの取組を積極的に進めます。

1 エコ活の推進

区制30周年を記念して、メイドインつづき推進事業と連携し、「メイドインつづき（中小製造業支援、地産地消の推進）」のPR及びSDGsの啓発を目的とした親子向けのイベント「eco チャレ 2024～エコな行動にチャレンジしてみよう～」を都筑区役所（1階区民ホール、6階大会議室、消防署中庭）で新たに開催します。（11月16日）

また、区庁舎に設置されている、窓際でつる性の植物をカーテンのように育て日光を遮る緑のカーテンの維持管理を行うとともに、区内公立小中学校（14校）を対象に緑のカーテンの設置支援を行いました。（～8月）



《区庁舎入口緑のカーテン》

2 クリーン推進事業

きれいな街を推進するため、自治会町内会等が実施する地域清掃の支援、駅周辺のポイ捨て防止啓発、農業専用地区等の不法投棄防止対策の支援を行います。

- ・清掃ごみ袋配付による地域清掃の支援：35団体配布（7月末現在）
- ・センター南駅前ポイ捨て防止啓発：（11月）
- ・農業専用地区一斉清掃：池辺、折本、新羽大熊、佐江戸宮原（7月～2月）
- ・東京都市大学の学生との協働による中川駅周辺の清掃活動（11月）



《東京都市大学の学生との清掃活動》



《農業専用地区等の不法投棄防止対策支援》

3 3R推進事業

3R行動推進のため、つづき3R週間をはじめとする各種イベントや赤ちゃん会など様々な機会を活用した区民等への啓発、「都筑区の子どもの読書活動支援」を目的とした市民団体との協働により、区民の皆様から読まなくなった本を回収し、区内の小学校・地区センター・コミュニティハウスへ配付します。

また、フードドライブの推進など食品ロス削減につながる取組を資源循環局等と連携し進めていきます。

さらに、プラスチックごみの分別・リサイクル拡大による市民の皆様一人ひとりの行動変容をきっかけに、環境意識の更なる向上と脱炭素行動の実践、「GREEN×EXPO 2027」開催に向けた機運醸成を図っていきます。

- ・つづき3R週間パネル展・イベント：6月20日～6月26日、2月7日～2月12日
（6月22日 区民ホールでイベント実施：啓発物品配布120人）
- ・赤ちゃん会での啓発（食品ロスの削減、ごみの出し方分け方）：9月～3月（18会場）
- ・リユース図書の配付：11月（区内小学校等）
- ・フードドライブ活動：回収した食品を区社協を通して食の支援を必要としている方や、子ども食堂へ461点提供（7月末時点）



《つづき3R週間パネル展・イベントの様子》 《フードドライブお渡し会（区社協）の様子》

【再配当事業】身近な公共施設・公有地での緑の創出・育成事業、保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成事業（みどり環境局）

横浜みどりアップ計画の一環として公共施設・公有地等において、敷地内の緑化及び緑地の維持管理を支援します。都筑区では、区制30周年記念及びGREEN×EXPO 2027の機運醸成として区庁舎駐輪場上の花壇の再整備等を行います。



《区庁舎駐輪場上の花壇（現状）》

21 みんなで花と緑のまちづくり事業 拡充	R6 予算額	R5 予算額	増△減
	383 万 1 千円	370 万 1 千円	13 万円

緑地や農地の多い都筑区において、より一層、花と緑にあふれるまちを目指し、区内の地域資源である公園や緑道などを維持管理するボランティア団体・個人の活動支援に取り組むとともに、魅力ある豊かな環境資源を広く発信していきます。

また、GREEN×EXPO 2027 の機運醸成に向け、区民が花と緑の大切さを認識し、身近な自然に親しむ機会を広げる取組を地域の皆様と協働して実施します。

1 都筑区花いっぱい運動の推進

区制 30 周年を契機に子供たちに区の花を認識いただくとともに、花への関心を高めるため、区内小中学校にサクラソウの花苗を育て方ガイドブックと併せて配付します。(10 月)



《育て方ガイドブック》

2 「早淵川・老馬谷ガーデン (HRG)」の維持・管理

地域及び東京都市大学と連携し、早淵川沿いの緑の拠点である HRG の維持・管理に引き続き取り組み、区民の花や緑を大切にする心を醸成するとともに、GREEN×EXPO 2027 の機運醸成を図ります。



《地域と大学生による手入れ》

3 「都筑区水と緑の散策マップ」の活用

「都筑区水と緑の散策マップ」を活用し、都筑区の環境資源の魅力を市民に発信します。

また、物価高騰に伴い価格を改定し、令和 5 年度に改訂したマップを発行・販売しています。(1 部 400 円)



4 みどりとみちのパートナーの推進

身近な道路や公園等を清掃、維持管理するボランティア団体（ハマロード・サポーター、公園愛護会、水辺愛護会）や個人に対して花苗や清掃用具等を提供しています。

また、パネル展（7 月 2 日～9 日）等での活動紹介や担い手を増やすための広報を行い活動の活性化を図るとともに、この機会を捉えて GREEN×EXPO 2027 の機運醸成もあわせて行っています。

団体数：210 団体（ハマロード・サポーター 53 団体、公園愛護会 154 団体、水辺愛護会 3 団体）※ 8 月末現在



《パネル展》



《江川せせらぎ緑道のチューリップと桜》



《ハマロード・サポーター》

【再配当事業】 GREEN×EXPO 推進事業（脱炭素・GREEN×EXPO 推進局）

GREEN×EXPO 2027 の開催への参加等につなげるため、引き続き広報PR・機運醸成に向けた取組を進めます。都筑区でも、局と協力して、来場につながる取組を進めます。

【再配当事業】 緑や花があふれる地域づくり事業（みどり環境局）

市民、企業、団体など様々な主体と連携し、全市を挙げて「ガーデンネックレス横浜」を実施し、全市・地域で花と緑による街の魅力創出を進めます。都筑区では、「つづき みどりと花の名所25選」を巡るウォーキングなどを引き続き行います。

【再配当事業】 ハマロード・サポーター事業（道路局）

自治会町内会、企業等のハマロード・サポーター各団体による市道の清掃、美化活動を支援するため、清掃用具の提供等により活動を支援します。

【再配当事業】 公園愛護会活動等支援事業（みどり環境局）

公園の清掃等の日常管理や花壇づくり、利用者のマナー啓発等を行う、地域住民で組織する公園愛護会活動を支援するため、活動面積に応じた報償費等により活動を支援します。



※都筑区のマスコットキャラクター「つづき あい」
第4期都筑区地域福祉保健計画推進・啓発バージョン

令和 7 年度都筑区個性ある区づくり推進費 予算編成の考え方について (案)

令和 7 年度個性ある区づくり推進費自主企画事業費の予算編成に当たり、次の考え方に基づいて取り組みます。

- 都筑区では、「財政ビジョン」「中期計画」「行政運営の基本方針」の『3つの市政方針』を基軸とし、「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」という基本戦略を念頭に置きながら、都筑区の実情にきめ細かく対応し、区民の皆様に本当に喜んでいただける独自の取組を推進していきます。
- 「切れ目のない子育て支援策」や「誰もが安心して暮らせる高齢者・インクルーシブ施策」、「にぎわい・活力のある地域・まちづくり」、「脱炭素・GREEN×EXPO 2027（2027年国際園芸博覧会）のさらなる機運醸成」、「命と暮らしを守る災害対策、防犯・交通安全施策」等について、都筑区内の各地域の様々な課題やニーズに迅速かつ、きめ細かく対応するための予算が自主企画事業費であるという認識のもと、区として行うべき取組を検討します。
- 6年度に実施している区制 30 周年事業の目的・コンセプトをレガシーとして活用できるよう取り組みます。また、7年3月にオープンする都筑区民文化センターの開館を契機とした地域の文化・芸術のさらなる発展や、周辺のにぎわいを含めた区の新たな魅力の創出に取り組みます。
- 限られた資源の中で多様化・複雑化する課題に対応し、区民の満足度を高めていくために、多様な主体との協働・共創に取り組みます。また、様々な機会を通じて現場に出向き、地域の実情、課題、思いを共有し、地域・団体・企業の皆様に寄り添って一緒に考えることで、パートナーとしてそれぞれの役割を発揮できるよう取り組みます。
- 検討に当たっては、これまでの事業評価の結果を着実に反映するとともに、歳出改革を徹底するため「スクラップ&ビルド」に取り組むほか、新たな取組となる「デジタルプラットフォームによる施策の反映」や「こども基本法の趣旨を踏まえた子ども自身が直接意見を表明できる機会の確保」にも取り組みます。
- 区民の皆様のニーズにしっかり応えられる区民満足度の高い施策を実施するために、E B P M (Evidence-based Policy Making：根拠に基づく施策立案) の観点から市民意識調査、区民意識調査、事業に関するアンケートなど各種データの活用をさらに進めます。
また、「各事業が区民の皆様にとどのような効果をもたらすか」という視点で、客観的で測定可能なアウトカム指標を検討します。

これらの取組により、「「つながり」「活力と魅力」「安心」を実感できるまち、ふるさと都筑」を実現していきます。

【施策の柱】

都筑区運営方針を踏まえて「4つの施策」に整理し、これを柱とし、令和7年度予算編成を進めます。

また、6年度は都筑区制30周年に関する様々な事業に取り組んできたことを踏まえ、アフター30周年として区制30周年記念事業の目的・コンセプトをレガシーとして引継ぎ、区民の皆様にさらに都筑を好きになっていただく機会をつくることで、「住みたいまち、住み続けたいまち」のさらなる実現を目指します。

ア 子育て世代をはじめ、あらゆる世代が住み続けたいと思えるまち

誰もが安心して子育てができるよう、妊娠・出産期から学齢期まで切れ目のない子育て支援が身近なところで利用できるまちづくりに、地域、保育・教育施設、学校、関係団体と連携して取り組みます。また、人と人とのつながりを実感できるように、自治会町内会と地域活動団体との連携強化を支援します。

イ 誰もが安全・安心に暮らせるまち

安全・安心な暮らしを支えるため、震災や風水害に備えた自助・共助の取組を支援し、地域防災力の向上を図るとともに、各種訓練を通じて関係機関・団体との連携強化や職員の災害対応能力を高めることで、災害に強いまちづくりを進めます。

あわせて、生活に身近な交通安全の啓発や地域の防犯意識向上に向けた取組を推進します。

ウ 活力とにぎわい、魅力あふれるまち

まちの魅力を存分に活かしてにぎわいを創出し、活気あふれるまちづくりを推進するため、商店街やものづくり企業、区内農家等、多様な主体との連携に取り組みます。また、文化・スポーツ活動を通じて、多文化共生及びグローバル教育の推進を図ることで、インクルーシブ社会の実現を目指します。

エ 花と緑にあふれ、豊かな環境を育むまち

花と緑にあふれるまちを目指し、区内の公園や緑道などの整備や脱炭素化に資する取組を行い、様々な主体と連携した緑化活動に取り組みます。また、区民が身近な自然に親しむ機会を広げるとともに、GREEN×EXPO 2027（2027年国際園芸博覧会）に親しみを持っていただき、来場したくなるような双方向のコミュニケーションによるPRを行うことで、更なる機運醸成を図ります。

都筑区制30周年の取組について

区制30周年を記念した各種取組については、「過去をたずねる」／「今を知る」／「未来を描く」の3つを軸に、「都筑愛」のさらなる醸成につなげることを目的として、次のとおり、地域・企業・団体等の皆様とともに進めております。

引き続き、ふるさとづくり委員会と協働で実施する事業や、区として実施する各種記念事業のほか、地域・企業・団体等の皆様が行う行事や取組及び区の事業等に「区制30周年」の冠を付け、区全体で区制30周年を盛り上げていきます。

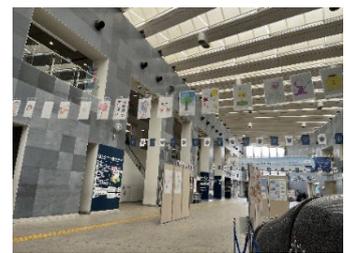
1 ふるさとづくり委員会との協働で実施する事業

(1) 記念動画の制作

都筑区の区制30周年までの変遷を振り返り、これまで中心となって活躍してきた方々の想いを記録するため、記念動画の作成を進めています。また、地域の子どもたちなどこれから活躍する若い世代の未来への希望を地域で共有します。制作した記念動画については、都筑区制30周年記念式典にて公開します。(11月9日)

(2) 小学校と連携した取組(装飾物の作成)

区制30周年を子どもたちと共に祝えるよう、夏休みの課題(宿題)の一環として、小学生から都筑区にまつわる絵を募集しました。概ね1,000点の多数の作品を提出していただき、それをもとにガーランド(連続旗)を作成し、都筑区総合庁舎1階区民ホールに展示します。(10月上旬～)



試作品展示の様子

(3) 第30回都筑区民まつり

区制30周年記念ブースの設置による広報、ガーランドやちらしなどの装飾によるPRなど、30周年を記念した区民まつりを都筑区総合庁舎周辺及びセンター南駅周辺で開催します(11月3日)。あわせて、都筑を好きになっていただく機会として、「都筑愛」や30周年ロゴマークを活用してふるさと意識の醸成につなげていきます。

2 区づくり推進費で実施する事業

(1) 都筑区制30周年記念式典

都筑区のまちづくりに尽力された区民への感謝の機会として、式典を開催します。式典は二部制で行い、第一部では区民栄誉賞等の表彰式や感謝状の贈呈式を、第二部では劇団かかし座による多世代の人が楽しめる公演を行います。

ア 日時

令和6年11月9日(土) 14:00～

イ 場所

都筑公会堂

ウ 内容

第1部：記念式典 14：00～14：50

市歌斉唱

主催者・来賓挨拶

区民荣誉賞・区政功劳賞 表彰式

感謝状 贈呈式

都筑区制30周年記念動画

第2部：劇団かかし座公演

(2) 都筑区制30周年記念 つづきてくたくスタンプラリー

都筑区ならではの公園・緑道を巡り、自然あふれる魅力を再発見するスタンプラリーを開催します。手軽に参加できるように、参加者のスマートフォンを活用したデジタルスタンプラリーとします。(11月1日～11月30日)

(3) 都筑区制30周年を契機とした子どもたちが学ぶ伝統楽器体験ワークショップ

地域に根づく伝統文化の共有と次世代への継承という観点から、和楽器（琴・小鼓・琵琶・口琴）体験と本格的な演奏の鑑賞ができるワークショップを、都筑区在住・在学の小・中学生を対象に横浜市歴史博物館で開催し、子どもが伝統芸能に親しむことができる機会を創出します。

(9月23日)

なお、劇団かかし座の区制30周年記念公演の際には、琴・小鼓・琵琶・口琴に親しむ伝統楽器体験のプレイベントを開催しました。

(8月3日・4日)



(4) 都筑区制30周年記念 キッズスタンプラリー

都筑区内の子育て支援関連施設（地域子育て支援拠点 Popola、市立保育所、民間保育所の子育て広場、親と子のつどいの広場、地域の子育てサロン等）を巡るスタンプラリーを実施します。スタンプラリーをきっかけとして区内に多数ある施設を知って、利用していただくことで、地域で安心して子育てができる環境の醸成につなげます。(10月26日～11月30日)

(5) 都筑区制30周年記念特設サイトの運用及びSNSを活用した投稿キャンペーンの開催

都筑区での日常、都筑区につながること（区内施設やスポット、イベント等）について、ハッシュタグ「#myつづき」をつけてInstagramで投稿いただく「myつづき Instagram キャンペーン」を開催しています。(7月26日～12月31日)

7月26日から8月31日にかけて実施したキャンペーンの第1弾では、市内プロスポーツチーム（横浜ビー・コルセアーズ、横浜F・マリノス、横浜DeNAベイスターズ）の御協賛による各チームのサイン入りグッズのほか、区内障害者事業所（アスタ荏田）の焼き菓子詰合わせを景品として実施しました。



9月1日から10月31日を応募期間とする第2弾では、IKEA 港北に御協賛いただき、IKEA 港北のソフトクリーム券を景品としています。

11月1日から12月31日を応募期間とする第3弾においては、JA 横浜に御協賛いただき、「いとしのやる JA んカレー」などを景品としています。

また、キャンペーン期間中、「#my つづき」をつけて投稿された画像については、「みんなの my つづき」として、「都筑区制 30 周年記念特設サイト」で常に閲覧できるよう、サイトを改修しました。



ロゴ作成の様子
(カプカプ川和)

(6) 都筑区制 30 周年記念給食における記念品の配付

区内市立小学校（※）において、都筑野菜を使用した区制 30 周年記念給食を実施するとともに、区内市立小学校の全校児童に若手職員による庁内プロジェクトが考案した給食袋を記念品として配付し、地産地消の推進及び「都筑愛」の醸成を図ります。（11 月～12 月）

※給食室の改築を予定している川和小学校を除く

(7) 都筑区制 30 周年啓発グッズ（彩（いろどり）のガーランド）の作成

手で持てる大きさのガーランドを作成し、自治会町内会や商店会、区民利用施設等に配布しました（6 月下旬）。作成したガーランドは、壁面への貼付けのほか、記念撮影に使用していただくことを想定しています。



(8) 都筑郵便局との連携による区制 30 周年 PR ステッカーの郵便車両への貼付

日本郵便株式会社都筑郵便局と連携し、都筑区制 30 周年及び GREEN×EXPO 2027 の PR のため、8月26日(月)から12月31日(火)まで、都筑郵便局が保有する全ての郵便車両にオリジナルステッカーを貼付しています。



(9) 横浜ビー・コルセアーズ須藤 昂矢(すどう こうや)選手が一日区長に就任

横浜ビー・コルセアーズ背番号 30 番の須藤 昂矢選手に一日区長に就任していただき、都筑区制 30 周年を一緒に盛り上げていただきました。(8月27日)





GREEN x EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月横浜・上瀬谷



令和6年度のGREEN×EXPO 2027（2027年国際園芸博覧会）の 機運醸成の取組について

GREEN×EXPO 2027の機運醸成を図るため、今年度は認知度の向上に加えて、脱炭素・GREEN×EXPO推進局と連携した会場コンテンツの紹介等のプロモーションを実施します。

1 令和6年度に実施した取組

【開催1000日前の機運醸成の取組】

① 1000日前イベントの実施

区役所1階「GREEN×EXPO 2027」特設コーナーに設置中のソラフラワー（稲の生育を妨げる雑草のため、抜いて廃棄されていた水田に育つマメ科の植物「ソラ」を、乾燥させて造花にしたもの）にペイントする子ども向けのイベントを開催1000日前の6月22日（土）に実施しました。環境に優しい素材を使用したイベントにより、子どもたちに環境保全の大切さを伝え、SDGsの意識醸成やGREEN×EXPO 2027への興味関心に繋がりました。

ペイント後のソラフラワーは庁舎内の「GREEN×EXPO 2027」特設コーナーに展示しています。現在はフォトスポットとして、多くの区民の皆様にご利用いただいています。



ペイント中の様子



「GREEN×EXPO 2027」特設
コーナー（ペイント後）

②都筑野菜朝市での花の種の配布

6月11日（火）の「都筑野菜朝市（毎月第2・4火曜日、第4土曜日開催）」にて、開催1000日前を記念して、先着50人に花の種を配布し、GREEN×EXPO 2027のPRを行いました。



花の種配布中の様子

③1000日前機運醸成POPの設置

「GREEN×EXPO 2027」特設コーナーに設置されているカウントダウンボードに、18区合同のPOP（広告）を設置し、1000日前を盛り上げました。今後も18区で連携した取組を進めていきます。



設置したPOP

【都筑区にゆかりのある著名人とのPR活動】

① 横浜ビー・コルセアーズ 須藤選手

都筑区がホームタウンのプロバスケットボールチーム「横浜ビー・コルセアーズ」の須藤昂矢選手にご協力いただき、区長と一緒に開催 1000 日前の PR 動画を撮影し、Xで発信しました。（6月19日発信）



①須藤選手とのPR動画

② プロレスラー蝶野正洋さん

プロレスラーの蝶野正洋さんにご協力いただき、「GREEN×EXPO 2027」特設コーナーにてPR写真を撮影しました。（7月23日撮影）



②蝶野さんのPR写真

【都筑郵便局の配達車等でのPR】

区制 30 周年と GREEN×EXPO 2027 の PR ステッカーを製作し、都筑郵便局に8月23日に贈呈を行いました。都筑郵便局の配達用自動二輪車や配達車、計143台が本ステッカーを貼布し、8月26日から区内走行中です。



ステッカーデザイン



2 令和6年度の取組予定

引き続き GREEN×EXPO 2027 の開催やコンテンツをより多くの皆様へ知っていただくことを目的として、より一層の機運醸成につながるような取組を進めていきます。

【地域説明会の実施】 自治会等の各種団体で地域活動を行っている区民の皆様を招待し、山中市長から GREEN×EXPO 2027 についての趣旨等を説明する地域説明会を開催。（10月8日）	
【区庁舎出入口窓にデザインシールを貼付】 消防署側出入口窓の半面に GREEN×EXPO 2027 の機運醸成につながるデザインシールを貼付。都筑区の魅力的な風景を活かしたシールをデザイン中。（11月） 	【区庁舎駐輪場上部の花壇再整備】 区制30周年記念特別事業により都筑区にゆかりのある草花を活かした花壇を再整備し、記念式典にあわせてお披露目。 （11月9日） 
【2年前イベントの実施】 再配当事業により、開催2年前にあたる3月にガーデニング講座を実施。	【各種イベントでのPR】 区民ホールでのイベント、区民まつり等で引き続き、広報活動を実施。